

令和7年第6回安平町議会定例会会議録（第2号）

令和7年9月18日（木曜日）午前10時00分開会

1 招集年月日 令和7年9月18日（木曜日）

2 招集の場所 安平町議会議場

3 出席議員（10名）

議席番号

1番 工藤 秀一	2番 米川 恵美子	3番 小笠原 直治
4番 鳥越 真由美	7番 三浦 恵美子	8番 箱崎 英輔
9番 内藤 圭子	10番 高山 正人	11番 梅森 敬仁
12番 多田 政拓		

4 地方自治法第121条第1項の規定により、説明のため会議に出席した者

町長	及川 秀一郎
教育長	井内 聖
代表監査委員	小川 誠一

5 町長の委任を受けて説明のため会議に出席した者

副町長	田中 一省
総務課	
総務担当課長	岡 康弘
情報担当課長	池田 恵司
政策推進課	
まちづくり担当課長	山口 崇
企画財政担当課長	木林 一雄
税務住民課	
税務戸籍担当課長	奥田 浩司
生活環境担当課長	佐々木 智紀
産業振興課	
産業振興担当課長	森池 和哉
建設課	
土木公園担当課長	塩谷 慎嗣
施設担当課長	伊藤 富美雄
健康福祉課	
国保介護担当課長	阿部 充幸
健康福祉担当課長	小坂橋 憲仁
水道課	
水道担当課長	谷村 英俊
下水道担当課長	佐々木 貴之
住民サービス課 兼 商工観光課	
総合支所長	村上 純一

6 教育委員会教育長の委任を受けて説明のため会議に出席した者

教育委員会

社会教育担当次長	渡邊 匡人	学校教育担当次長	佐々木 英生
----------	-------	----------	--------

7 職務のため出席した議会事務局職員

事務局 長 石 塚 一 哉 主 幹 鈴 木 慎 二

○ 議 事 日 程 （第2号）

日程番号	議案番号	付 議 案 件
日程第1		一般質問
日程第12	認 定 第 1 号	令和6年度安平町一般会計歳入歳出決算の認定について
日程第13	認 定 第 2 号	令和6年度安平町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
日程第14	認 定 第 3 号	令和6年度安平町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について
日程第15	認 定 第 4 号	令和6年度安平町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
日程第16	認 定 第 5 号	令和6年度安平町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
日程第17	認 定 第 6 号	令和6年度安平町水道事業会計決算の認定について
日程第18	議 案 第 1 号	町政功労賞被表彰者の同意について
日程第19	議 案 第 2 号	安平町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について
日程第20	議 案 第 3 号	安平町公共下水道条例の一部を改正する条例の制定について
日程第21	議 案 第 4 号	早来第1汚水中継ポンプ所外電気機械設備更新事業に係る請負契約の締結について
日程第22	議 案 第 5 号	財産の取得について（学習用タブレット端末更新事業）
日程第23	議 案 第 6 号	財産の処分について（旧遠浅小学校土地、校舎・風除室・住宅及び付帯施設）
日程第24	議 案 第 7 号	財産の無償貸付について（旧遠浅小学校屋内運動場）
日程第25	議 案 第 8 号	令和7年度安平町一般会計補正予算（第3号）について
日程第26	議 案 第 9 号	令和7年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について
日程第27	議 案 第 10号	令和7年度安平町水道事業会計補正予算（第2号）について

日程第28	議案第11号	令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）について
日程第29	意見案第1号	OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書（案）について
日程第30	意見案第2号	国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書（案）について
日程第25		議員派遣の件について
日程第26		総務常任委員会の閉会中の継続調査申し出について
日程第27		経済常任委員会の閉会中の継続調査申し出について
日程第28		議会運営委員会の閉会中の継続審査申し出について

○ 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問 ～ 閉会

○ 会議録署名議員

議長は、本定例会の会議録署名議員に次の2人を指名した。

2 番	米 川 恵美子
10 番	高 山 正 人

会 議 の 顛 末

◎ 再開・開議宣告及び議事日程の報告

○議長（多田政拓君） おはようございます。

只今の出席議員数は10名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりです。

◎ 日程第1 一般質問

○議長（多田政拓君） 日程第1、一般質問を行います。昨日に引き続き通告順に発言を許可します。9番内藤圭子議員。

【通告No.6 9番 内藤 圭子】

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 9番内藤です。よろしくお願いします。

安平町は空港や港に近く立地が恵まれていると言われていたのですが、住んでいる人にとって安平町の交通事情はどうでしょう。田舎暮らしは車が無いとどこにも行けず何もできない。歳を取って免許証の返納をしたら住めなくなるというのでは困ります。現状に満足せず、より住民のニーズに合った公共交通を考えるために質問します。

デマンドバスは商工会が交通不便地域の解消や商店街の賑わい活性化のために運行していると聞きます。循環バスは町があつまバスに委託して他の公共交通との調和を考慮しながら迫分・安平・早来・遠浅の地区間をまたぐ移動を担うために運行する。ハイヤーは地域おこし協力隊が就任して順調に運行していると聞きました。今回はデマンドバス、循環バス、ハイヤーについて質問したいと思います。

現在の公共交通の利用状況と予算について伺います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 循環バス、デマンドバス、ハイヤーの利用状況については、いずれも令和6年度の実績値を用いてご説明させていただきます。なお、ハイヤーの利用状況の実績値については、ハイヤー運行全体の乗車人数ではなく町が把握できるハイヤー運賃半額助成事業の利用件数となっていますことをご留意願います。

まず循環バスの利用者数は6907人、前年比プラス15%と増加しています。次にデマンドバスの利用者数は2643人、前年比マイナス26%と減少しています。最後にハイヤー運賃半額助成事業の利用件数は1万464件、前年比プラス24%と増加しています。デマンドバスの利用者数の減少とハイヤー運賃半額助成事業の増加については早来地区でのハイヤー運行がドライバー役を担う地域おこし協力隊の着任により令和6年6月24日に再開された影響が共通して表れているものです。

続きまして循環バス、デマンドバス、ハイヤーの運行にかかる事業予算についてご説明します。事業予算については令和7年度の予算金額を用いてご説明させていただきます。まず循環バスについては、循環バス運行業務委託料に2541万4000円、次にデマンドバスについてはデマンド交通運行事業補助金に1756万5000円、MONE Tシステム使用料に198万円の合計1954万5000円。次にハイヤーの維持確保等にかかる事業予算についてはハイヤー運賃等半額助成金に520万、二種運転免許取得助成金に47万9000円、ドライバー役を担う地域おこし協力隊の配置経費2名分に993万1000円の合計1561万円。これら通常年度の予算組みに本年度については国土交通省所管の補助事業、交通空白解消緊急対策事業、通称公共ライドシェア事業と呼ばれるものですが、この採択を受けてさきの6月議会にて補正予算を計上しました886万8000円が加わります。これら全てを合計した予算金額は6943万7000円となっています。なお、ここから補助金や特別交付税措置分等の収入見込み分1832万6000円を差し引いた実質負担額ベースでは5111万1000円という金額になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 今のお話を伺って町民の皆さんが循環バスとハイヤーを選んでいる現状がわかりました。デマンドの利用が減っているというのはこの地域おこしが着任してハイヤーが走っていることでハイヤーを皆さんが選択しているということがわかったのですが、棲み分けをしてと最初に私言ったのですが、この今の状況がデマンドバスとハイヤーの棲み分けができている状況かどうかの判断をお聞きしたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 棲み分けについてということでした。この部分は民間と、どのようなバランスになっているかの難しい問題だと捉えています。デマンドバスについては過去にハイヤー事業が撤退とか縮小したことに伴いまして生まれてきた制度でして、このデマンドバスとハイヤー事業をどのように両立させるかが現在課題になっているかと思います。特に早来地区でのハイヤー事業の経緯も見ていきますと、早来ハイヤーが平成31年3月に撤退しました。その1年後になる令和2年4月に追分ハイヤーが早来地区での営業を再開したのですが、この時はコロナ禍の影響もありまして利用者数が少なく、約1年半後には令和3年10月なのですが撤退した状況があります。その後、約2年9か月空白期間がありまして、そこに地域おこし協力隊の着任を受けて早来地区での営業が再開した現状もありまして、ハイヤー事業が無い時にデマンドバス利用がしっかり皆さんの地域の足として支えていた。ここに早来ハイヤー事業が復活してきたのでその辺の利用者数が、どうしてもより便利なドアtoドアであるハイヤーに流れていると。このバランスを言いかえると損益分岐点というのでしょうか、その辺の見極めが難しい状況なのかなと認識しています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） この問題、バランスを取りながらというところでは最後の方でもまた聞きたいと思いますので。

次は循環バスが増えている要因はどのように分析しているかということと、これが他のあつまバスやJRに影響が無いのかということをお聞きしたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 循環バスは、かつてせいこドームバス、あつまバス、安平循環線を統合再編して平成31年4月から新規運行を開始したのになっています。追分から遠浅の町内4地区をまたぐ移動ニーズに応えるバスとして運行しています。この時刻表の作成にあたっては鉄道やあつまバスが運行する路線バスといった都市間をつなぐ路線との乗り継ぎのしやすさに留意しています。こうした今使い勝手の良さが苫小牧や千歳の都市間の病院へ行く方や買い物に行く方、また通勤に使う方などに少しずつ浸透してきているのかなと認識しています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 認知度の上昇ということも考えられると私も時間が経ってこのように利用者が増えていることは思ったのですが、路線で言うとＪＲとあつまバスと被るところが多いので、そちらの影響はどうかなと思いました。

今の説明で経費が大体5100万円かかっているということがわかりました。利用者は使用料としてどれぐらい払っているかをお聞きしたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） こちらも令和6年度実績ベースとなりますが、循環バスの使用料収入分としては137万9400円。デマンドバスの利用料収入分については74万2200円と、合計して212万1600円という状況になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 今の説明で町がこの公共交通を維持するために、たくさんのお金をつぎ込んでいるんだということがわかりました。

2番の質問に行きます。今住民の皆さんからハイヤーを使いたくても予約が取れないとか夜間や休日の移動が不便、事務所が休みの時は予約ができないなど声が聞こえていますが、町としての問題の認識はどうなっていますか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 只今のご質問の趣旨としては公共交通の利用に不便さや不安を感じている町民からの意見を聞く機会の設定状況や、そこで聞き取った町民意見に対する町の課題認識。そしてその課題をどのように検討して取り組みに反映しているかといった内容かと思しますので、その現状について説明します。

まず、公共交通の利用者や地域住民の皆様からのご意見を聞く機会の設定については主に3つの方法で行っています。3つの方法は大きなサイクル、中ぐらいのサイクル、小さなサイクルといった状況をイメージしながらお聞

きいただければと思います。

1つ目は概ね5年に1度の動き。大きなサイクルという観点になります。これは安平町地域公共交通計画を策定する際にアンケート調査や町内4地区でのワークショップ方式による意見交換などを実施し、地域住民のニーズの把握や課題の整理を行って各種施策として地域公共交通計画に反映できるように努めているところです。なお、現在は令和4年6月に策定された本計画に基づきながら各種取り組みを実施しているところです。

2つ目は毎年の動き。中くらいのサイクルという観点になります。こちらは利用者からの意見の反映や施策の実施状況の確認を行う機会の場になっているものです。それは先ほど申し上げました安平町地域公共交通計画の進捗管理を行う組織に位置づけられています安平町地域公共交通会議において概ね年3回のペースで実施しています。この協議会は安平町、室蘭運輸支局、胆振総合振興局、地域の交通事業者3社、安平町商工会、地域住民の代表として町内4地区の町内会連合会の会長、老人クラブ連合会会長等といった17名で組織されているものでして、この協議会において町内の公共交通全体にかかる翌年度のダイヤ改正やバス停の追加などに関する協議を行っています。具体的な主な改正内容を申しますと、令和6年度改正では循環バス運行でフリー条項区画を追加、デマンドバスはバス停2か所追加の実施、令和7年度改正では循環バスはフリー条項区間の2区間の追加、デマンドバスのバス停の1箇所追加など利用者や地域住民の声を反映させながら毎年のダイヤ改正に反映できるように努めています。

3つ目になります。こちらは日々の動きという小さなサイクルの観点となりますが、日常的に起こりえる利用者からの問い合わせや苦情への対応等を通じた課題の把握。地域ミーティングや出前講座等での制度説明の機会を通じた意見交換を行っています。その中で改善や見直しができるものであれば先ほど申し上げました安平町地域公共交通会議の場に諮り、地域住民を含めた関係者間での合意形成を行いながら各種施策の改善、見直しを進めています。

このような形で地域公共交通計画の継続的な進捗管理を進めているなか、現状の安平町の公共交通の課題として浮彫になっているものが平日の夜間、日曜・祝日にデマンドバスやハイヤー等が運行していない、平日でもハイヤー利用者が重複して予約が取れないといったニーズへの対応であり、こうした交通空白の解消に向けた対策の検討が必要と認識しているところです。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 一部補足します。今説明したとおりなのですが、地域公共交通会議の中で地域の交通事業者3社と申し上げましたが、J R・あつ

まバス・追分ハイヤーのこの3社となります。

また、フリー乗降区間の1区間追加という令和6年度の循環バスの追加した場所は追分高校前付近の1か所、あとデマンドバスのバス停の2か所の追加と申し上げましたが早来学園前と安平公民館前を実施しています。

7年度の改正の循環バスのフリー乗降区間2区間の追加ですが、これも地域から要望があった青葉会館前から灯篭舎っていう喫茶店ができた付近、あと2か所目は花若会館前から南公営住宅付近、最後にデマンドバスのバス停の1か所の追加は追分郵便局前です。箇所数は先ほど答弁したのですが、その場所の関係について補足させていただきます。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） こうやって住民の声を聞いてバス停を増やしたりフリー区間を増やしたりして、より住民にとって利用しやすい公共交通になっていることがわかりました。

ハイヤーの予約がいっぱいで予約ができないことなのですが、ハイヤー事業が順調ならハイヤーを増やすことはできないのかなって単純に思ったのですが、いかがですか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） ハイヤーの車輛が早来・追分の両エリアに各1台ずつの配置という現状となっています。そうしたところに予約が重複しますと、例えば一度遠方の病院にいきますとその間に対応できないといった実情になっています。また、現在は町によるハイヤー運賃半額助成によりましてその利用件数は伸びてはいるのですが、先ほど申し上げたとおり1台さらに増やした時の維持費等を考えていくと、損益分岐点がどこにあるかは事業経営・運営上、非常に悩ましい問題であるかなと認識しています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 損益分岐点を実際に計算したかというところなのですが、そちらはやっているかどうかお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 特にハイヤー事業については、ハイヤー1台動かすのに最低でもシフトを組む関係で2名、3名の人員を抱えながら回している実態にあります。そうした観点からいくと、もう1台増やしてシフトを組んでいく、そこに利用者数が本当にニーズとして埋まるのかがありますので、計算上シミュレーションはできるのですが、今利用者の実態がどれだけニーズが生まれるのかの把握が難しい点だなと思っているのと、ここはハイヤー事業者さんの肌感覚ですが、打ち合わせをしている中では2台を抱えていく判断は現時点では難しいと伺っています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 結局はデマンドバスについて、昨日も言われたのですが、電話をしても予約が取れないと。1時間前に電話をくれと言われていて電話してもなかなか予約が取れない。そんな中でだんだん諦めてしまって利用が減っているというのは、その利用者さんが言っていました。

1時間前にデマンドバスを予約しろというのは私としては使う側にも使われる側にも不便だと思うのですが、そちらの方は1時間前に連絡してくれというところが、今そういうルールなのかを確認します。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） デマンドバスの乗車の時の現状のルールですが、基本的には乗車したい便の1時間前までに電話またはスマホで予約ができますとなっています。その場合、注意するところが電話の場合、朝の第1次2便を希望する場合、こちらは朝早い便になるのですが、こちらの場合は前日までに予約をお願いしたいという状況になっています。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） ハイヤーとデマンドの大きく違う点が、デマンド利用されている方はご承知なのですが、なぜ1時間かという乗り合いバスみたいな形でそれぞれの配車のルートを決めていきながら目的地にお客さんを届ける形になりますので。配車のルートを決めていくのに今は人でやっていますが、一定の時間がかかるということです。

今、冒頭申し上げた公共交通の交通空白の解消、こちらの形を今年度着手

しています。この後のやり取りでも出てくるのかもしれませんが、そういったシステムを入れることによって電話だったりスマートフォンだったりきちんと、予約がルート上も速やかに検索できたり、ルートが決められたりといったことができるような利便性の高いものを今導入に向けてチャレンジしている最中ですので、今みたいな問題点は十分にわかっているのですが、このデマンドバスとしての問題点としては時間があるところではご理解いただければと思っています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 1時間前までにというところにその人も固執しているような気が私もして、またその方とも話してみたいと思います。

循環バスの時間を遅くしてほしいとか、バス停を増やしてほしいとか、バス停にベンチを置いて欲しいなどの声は担当の方に届いていますか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） そうした要望はしっかり届いています。そうした意見を踏まえながら、できるものは可能な限り実施できるように努めていまして、実施にあたっても先ほど申し上げた地域公共交通等会議にもかかけながら合意形成を図って実施しているような段取り、状況となっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 先ほど1番の説明の時にMONE Tの予算が出ていたと思うのですが。現在のMONE Tの利用状況と、今後どのように考えているかをお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） MONE Tの利用状況についてお答えします。また、今後についてということでもございました。

MONE Tの利用については、昨年度、令和6年度は利用促進を目的にスマホ予約無料乗車キャンペーンを実施させていただきました。昨年については予約者539名に増加した状況になっています。

また、このMONE T事業ですが令和元年から導入されていまして、令和元年から5年の間は年間で1.6人の利用実績でした。そうした状況があったので令和6年度、

○町長（及川秀一郎君） 年間で1.6人。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 年間で1.6です。

○9番（内藤圭子君） ほとんどいないっていう、

○町長（及川秀一郎君） 年間で小数点って。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 具体的に言いますが、令和元年の利用者が1名、令和2年が3名、令和3年が利用者無し、令和4年が4名という状況でして、令和5年も0名でした。こちらを5年間で均しますと年平均1.6人という状況となっています。

そうした状況におきまして令和6年度に無料乗車キャンペーンを実施しまして、こちらが539人になっていました。そうした実態があったのですが、デマンドバス全体の利用状況で言いますとスマホ予約を利用した方は20.4%になりまして、それでも電話予約の方が80%以上を占めている状況もありまして、この辺の課題が改めて浮彫りになったのかなと認識しています。

こうした課題が浮き彫りになりましたので、今後についてなのですが今年度公共ライドシェア事業で取り組む中では新たな配車システムを検討していきまして、現行のMONE Tシステムはスマホ予約、一方通行の予約しかできなかったのですが、今年実証事業で検討する配車システムは電話予約についてもしっかり対応ができるような電話予約にもオペレーターで対応できますしスマホ予約も受けられると。今度、管理者を置けない夜間についてはAIによるオペレーター対応も可能だというような1システムで3役こなせる配車システムを前提に実証実験を進めていきたい考え方をしています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） MONE Tの本当に利用されない状況がわかりました。

新しい配車システムについてですが、懸念していることがオペレーターが一方的にしゃべって、それに対してお年寄りがそれに対応していくというのがお年寄りの想定に合わない質問だとお年寄りがそれで困っちゃうとか、噛み合わない時とかお年寄りが予約できないことにならないかなという懸念をこの自動オペレーターという言葉で思いました。

これから実証実験をしていくということでいろいろ改善されているのではないかなって思うのですが、そうするとMONE Tに関してはこのMITTに切り替えていこうという実証実験が始まるわけですが、どのようなタイミングでこういう判断になっていくかをお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 今、内藤議員からもおっしゃってくださったMITTが今新しい配車システムの予定でして、こちらが令和7年3月6日に連携協定を結ばせていただいたC I C A Cというところが開発しているシステムです。こちらは既に桐生市のハイヤー・タクシー会社で運行している実績もありますので、このシステムが安平町においてしっかり機能するかをこの実証実験で見たいと思っています。

また、お年寄りの対応の不安なのですが、こちらも現行の電話対応を前提としたシステムですので、そこは今までどおりしっかりやっていくと。

もう1個、利便性としては先ほど町長の方から補足していただいたのですが、デマンドバスの方が現在予約を断るケースとしては相乗りが前提です。で、ご本人が、例えば11時まで病院に行きたいといった時に先に予約の方が居りますと、どうしても回る順番を調整した時に本人が行きたい時間に行けないとなると。じゃあ、それならデマンドでは間に合わないので予約しないでというケースが出ていると聞いています。利用者からするとそこでデマンドバスなのかハイヤーなのか選択が生まれるのですが、辛いところにしっかり届かないような課題もありますので、これがAIを使った配車システムが入ることで予約状況を瞬時に判断して、その中から効率的な運行ルートを弾き出しまして、到着時間等や料金まで先にわかるといったシステムの導入を検討しますので。そうしたところがうちの町にどれだけしっかりと有効に使えるかをこの実証実験で見極めていきたいと考えています。それがしっかりとできますと、現行のMONE Tシステムから切り替えていくことも道筋が立ってそうした整理になっていく見通し観を持っています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 実際に、例えば今年実証実験して来年から切り替わるのか、もう1年とか。その辺りの時間軸はどうなっていますか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 現在こちらでも今年の公共ライドシェア事業の実施に伴いまして交通事業者、追分ハイヤー・デマンドバスの運行を実施していただいています安平町商工会の方からその辺りを検討しているところ

です。導入するにあたりまして、そのシステムをどこが管理してどれだけ人を配置してというところもかかってきますので、この辺を現在協議しながら切り替えるタイミングはいつが適正になるのか、その辺りも現在協議を進めているところです。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 公共交通の難しいところは民間とのバランスがどうしても出てきてしまって。今の状況は民間とバランスが取れている状況なのかという町側の判断をお聞きしたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 民間と言いますと循環バス・デマンドバス・ハイヤー事業があるのですが、循環バス・デマンドバスは町の方で委託をかけている状況になっています。特に民間となるとハイヤー事業がそこにあたるのかなと認識をするのですが、現在ハイヤー事業についても半額助成やドライバーについても地域おこし協力隊を投入している状況ですので、既に官民協働の事業実施体制になっていると認識しています。特にハイヤーはコロナ禍を経てソーシャル事業というか地域に欠かせない事業としてその公共性が特に認められてきて、過去の状況とは変わってきたなと捉えていまして。民間とのバランスの観点で言いますと、安平町においては今ハイヤー事業についても地域に欠かせない事業であると考えていまして、そのバランスの在り方については、これから公共ライドシェア等を含めながら協議して、整理をしていくことが必要かなと考えています。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 今、山口課長が答弁したとおりですが、根本的な課題がいくつかありますが、一番大きいのが運転手の確保といったところも、これはどこの町もいろんな業種においても不足していまして、運転手の確保が大きな課題になってきていると思っています。

そこで安平町では地域おこし協力隊員の制度も活用しながらやっていますが、これとて地域おこし協力隊に応募が無いことだってあり得るわけですので、公共としてどこまで人員配置に力を支援していくことができるのかといったことも当然課題になっているかなとは思っていますし、また初期費用で

いくとこれからガソリン車ではなくEV車だったりハイブリッド車といったところで燃費効率の高くゼロカーボンにもという時代背景が求められてきていますので、そういったところでの初期投資に対する安平町は支援、先般させていただいていますが、そういったことが無いと民間事業者だけでこの利用者が少ない地域を住民の希望どおり配車するのは難しいなどは実感していますので、民間事業者との話し合いだったりバランスだったり、一方では住民のニーズを聞き入れることができるといったことから今回公共ライドシェアということで、日曜日がいずれにしても配車できていないわけですので、そういったところを町民の力も借りながら何とか隙間時間で運転していただける、時間単位で運転手として働いていただけるといったことを模索しながら実証実験をしていこうということですので。そこが上手くはまれば今より利便性が高くなる公共交通になるのではないかと思います。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 次の質問です。今後、問題解消のためにどのような計画がありますか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 先ほど課題として掲げました平日の夜間や日曜・祝日にデマンドバスやハイヤー等が運行していないといった交通空白のある時間帯の解消に向けては、国土交通省所管の補助事業・交通空白解消緊急対策事業の事業採択を4月28日に受けることができました。

新たな配車システムの導入、こちらが先ほど申し上げたMITTになります。新たな配車システムの導入とセットにした公共ライドシェアによる実証実験を12月中旬に実施できるよう現在鋭意準備を進めているところです。

また、実証事業用として確保する車輛1台については、公共という位置づけで安平町が用意することになることから、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みの観点や安平町地球温暖化対策実行計画等を踏まえ、町長が先ほど申し上げましたとおりハイブリッド車を選定したいと考えています。

また、この公共ライドシェア実証事業の実施にあたりましては地域の実情に合った有効性の高い事業にしていくことが求められますので、地域住民へのニーズ調査や交通事業者へのヒアリング等の基礎データの収集、実証実験に基づく分析業務も合わせて行う予定です。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） ここで新しくライドシェアという言葉が出てきたのですが。まずはこのライドシェアという言葉の意味を、このまま訳すと相乗り、一緒に乗るみたいに受け取れるのですが、いかがですか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） ライドシェアの言葉の意味ですが、一般的にはライドシェアとは一般の人が自家用車を使って有償で乗客を目的地まで運ぶサービスと言われています。デマンドバス運行のような相乗り方式もあればハイヤー運行のような1組方式もありまして、どちらを選択するかは地域の実情に応じて選ぶことができる中身になっています。

安平町での実証事業では、現在ハイヤー運行の1組方式を想定して関係者での協議を進めている状況になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 他の地域だと、私が聞いたのは自分の車に連絡が来て、その自分の車でハイヤーのようなお客さんを乗せて目的地まで連れていく方法を聞いたのですが。安平町は町が車を準備して、それを使ってお客さんの送迎をする形を選択した理由を聞きたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 安平町が今、実施しようとしている交通空白になるのですが、交通空白をターゲットとした公共ライドシェア事業をひくことになりますので、基本的には夜間・休日にしっかり運行できる体制を作る。

もう1つは平日でも先ほど内藤議員から複数回出ているのですが、予約をしようとしてもタクシー会社で断るケースがあると。そうした平日の車が足りないところをまた公共ライドシェアで用意したもう1台の車輛が補完して対応できるようにという考え方をしていますので。現行のデマンドバス・ハイヤー事業を基本とした上で、そこに生まれている空白を利用者が本来利用したいと言っているところで今運行していない車輛を置いていくイメージになりますので。この点については、例えば夜間であると相乗りよりもハイヤ

一方式の方がうちの町であると適当であろうと交通事業者さんからそのような声を聞いていまして、そちらの方向に協議を現在している状況になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） こういう形を選んだのは、ハイヤー業者さんとかとも相談した上ということがわかりました。

ライドシェアの経費は、さっき交通空白解消緊急対策事業の886万8000円のこの経費で賄えるのでしょうか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 事業費のことになりますと、先ほど6月補正で提案した予算額を述べさせていただきました。今回の9月補正においても追加補正の提案をさせていただいている状況でして、そちらが仮に承認されればということになるのですが、今9月補正では追加部分として126万9000円の予算提案の要望を上げている状況になっています。

また、先ほど申し上げた令和6年度の補正部分についてですが、私の方で言葉足らずがありまして、先ほどの予算には本当の実証分だけを入れたのですが、私の方で説明するのはそこに4万4000円の会議経費も国費事業としてかかっているんで、その数字に基づいて説明したいと思います。9月補正分が仮に承認を受けた場合には総事業費予算として1017万7000円という総事業費になる見込みになっています。こちらに国費で内示をいただいている金額が684万9000円となっておりまして、実質負担ベースでは332万7000円となります。補助率ベースで今67%という数字を見込みながら実施していく状況になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） ライドシェアのドライバーさんが募集されていましたが、応募状況をお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 応募状況については現在4名の応募がきている状況になっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 4名ということですが。これ10名ぐらいでしたか、もう少し必要だと思うのですが。今後どのような広報をするか。

あと、この後の実証事件までのタイムスケジュール的なことを続けてお願いしたいと思います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 募集人数にあたりましては広報上では数名となっているのですが、現状として想定しているのは4名から5名をシフト組みの現状から考えている状況になっています。

また、今後のスケジュールになりますが、現在応募いただいた方を仮にこの後順調に採用できた場合には、9月下旬に予定していますドライバー予定者には2時間ほどの交通空白地有償運送講習を受講していただく予定となっています。そうした手続きや陸運局に対しても事前に公共ライドシェアを実施するにあたっての登録の手続きが必要となりますので、そうした実務を進めていきまして、実証期間としては12月10日水曜日から27日土曜日の18日間を予定しています。こちらの期間設定についても交通事業者さんや陸運支局の方とも相談しながら、イメージとしては特に忘年会といった時期にも重なってくるので、最初は冬の運行は避けたいと思っていたのですが、よりリアルな繁忙期を目がけて公共ライドシェアをすることでいろんな課題が見えるだろうという議論をして準備を進めているところです。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） この新しいライドシェアという公共交通の試験走行をするにあたって、どんな結果だったらこれを安平町は取り入れることに進んでいくかお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） ニーズの見極めになるのかなと思いながら聞いていたのですが。今回の交通事業者様と協議していますと、そのニーズがどれほどあるかに対して、とても慎重なご意見をいただいているところです。一度この制度を組みますと、そこにかかっていく経費が発生します。先ほども申し上げたとおり運転手のシフトを組むだけでも4、5名の人を常に抱えながらその空白に対応していくことになりまして、その部分をニーズとしてどれだけ埋めていけるのが課題でして、それを今回この事業を通じて見極めるところを想定しています。

また、その分析結果を先ほど申し上げた利用実態調査と分析業務を業務委託としてお願いしていただき、それを今回の結果を踏まえた時にシミュレーションをかけ、それが安平町の将来の公共交通の姿としてどのような形で再構築していくかも合わせてこの実証実験でしたいと思っています。

特に具体的にはデマンドバスとハイヤー事業。こちらはどうしても相関関係のある運行体験になっていますので、一元化がどれだけでできて効率化が図れるかという観点もこの実証実験を通じて分析する予定となっています。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 実証実験には先ほどから出ているC I C A CさんによるM I T Tの配車システムをもう実際に稼働していて、それが道内でもそれを導入していこうという動きが出てきていますが、その中で先ほど申し上げた電話がまだ圧倒的に8割を占めている、その割合は年数が経つことにだいぶ変わってくるだろうなど。電話が減ってスマートフォンでの予約がだんだん増えてくるのだろうなと思います。過渡期かもしれませんが、そういったところに対応できるのが新たな人員というよりオペレーターの人数ではなくてA Iも活用しながらできることが大きいので。公共ライドシェア、夜間や祝日・休日の実証実験結果によって4人運転手を抱えながらも利用が少ないということになってくるとライドシェアについては実施できないことも見直ししなければ実施できないという、結果によっては出てくるかもしれませんが、ただM O N E Tシステム自体に経費がこれまでもかかって、無料のキャンペーンをやっても、先ほど申し上げた圧倒的に1.62から500人台までってすごいのですが、でも500人が多いか少ないかという人多いと思っています。無料であればその何倍の利用者があっていいのではないかと思いますので。M O N E Tからの経費の今までかかっていた部分をこれに振り替える形でいけば行政コストも下がっていく。C I C A CさんのこのM I T Tのシステム以外にもいろんなシステムって、もう既に全国都市部でありますよね。でも、ここの過疎地域にマッチした仕組みであり、その経費も格段に安いのもC I C A Cさん、連携協定結んだ時にも申し上げましたが、そうい

ったところが強みですので、実証実験の結果を踏まえて現状よりもさらに快適になるようにしていかなければならないと思っていますから。せっかく国からも支援していただいた実証実験事業ですので、結果をいい方向で、全てじゃなくても導入できるように交通事業者との調整もまた公共交通会議の皆様方のご意見も踏まえながら、いい方向に持っていけるようにしていきたいと思っています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 私も経費が気になったのですが、今までMONETに、去年で195万という数字が出ていたのですが、具体的にMITTはどのようなかなということと、実証実験をするにあたって大事ではないかなと思ったのが、これをやりますよという宣伝しないと住民の人が知らないんだったらその時間に乗ることもないだろうし、せっかくこうやって新しいことに取り組むにあたっての住民の周知が大事だなと今の話を聞いて思いました。

公共交通も主にお年寄りなのですが、使っていく中でこれ便利だよという口コミで随分増えたんじゃないかなって私は感想を感じているのですが、今回に関してはお年寄りに限らず、いろんな世代に届くような宣伝をしてみずはそれを使ってもらいたいとやっていくことが必要ではないかと思いました。

利用者の声を聞くということで、バスに乗ってアンケートをすると前6月議会で説明があったのですが、これは一番の早道で。ただ、バスには乗れないけど潜在的な利用者っていらっしゃると思うのです。本当は使いたいんだけど乗り方がわからないとか、どうやったらいいのかわからないという人たちもぜひ使っていただいて。そういう人たちの声をどう拾うか。5年、10年後が利用者になっていくだろうという人たちの声もぜひ拾ってほしいと思いますが、その辺りどのように考えているかお聞かせください。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 利用者の声の吸い上げ方のご質問かと思います。先ほど答弁したところが一つ基本かなとなっているのですが、1つは5年サイクルの計画策定時にアンケート調査やワークショップ形式でやっていくこと。また、年間サイクルで言いますと、そこでも日々利用者の方からいろいろなご意見いただきますので、そうしたところも丁寧に吸い上げながら対応していく。日々の動きとしては利用者様から直接の問い合わせ・苦情。こちらから出向く形としては地域ミーティングや、要請があれば出前講座の

方にいきまして、そこをしっかりと説明する機会を増やししながら丁寧に対応していくことが一つ基本かなと思っています。

また、将来の利用者の方がより便利なシステムにしていくためにはというご質問かと思いますが、その点についても私どもとしては現在利用している方たちの声をしっかりと今回の調査も通じながら聞き取って、それを新しい運行体制や現行の運営体制に反映させることで将来の利用者の方にとってもより有益な取り組みになっていけるように、そんな考えの認識のもと取り組みを進めていきたいと思っています。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 加えて現在安平町で進めているスマホ役場もLINEのアプリを入れている方が非常に多く、安平町のLINE登録も既に2000人を超えたということです。プッシュ型の通知も出せる仕組みになっていますから、先ほど内藤議員がおっしゃったお年寄りだけでなく5年、10年後の若い方も逆に公共ライドシェアで行けば飲んだ後に使うところでのニーズは若い方がもしかするとあるかもしれません。そういった方にもプッシュ型で通知できるようなことも含めて周知が大切だと認識していますので、あらゆる手段も考えていきながら周知をしていきたいと思っています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 安平町の今後こういう新しい実証実験をした場合、デマンドバスとかハイヤー事業があつて、このライドシェア、選択肢がいろいろ増えるのですが、これらを減らしていく、まとめるという考えがあるかどうかお聞きします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） この実証実験を通じてこちらも一つ選択肢に置いています。具体的に言いますとフルデマンド方式というものがあるのですが、デマンドバスがドアtoドアで対応できる方式が1つあります。こちらを導入すると、それこそハイヤー事業との棲み分けをどうするのかという課題が残りますので、そうした観点もこの事業を通じて現在協議をしている状況とあっています。

〔内藤議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 内藤議員。

○9番（内藤圭子君） 今回、この公共交通について質問させていただいたのですが、なかなか車に乗っている人にとっては自分事として考えられないなということも感じましたし、私がもし車が無かったらという観点で質問を考えました。公共交通は町のオーダーメイドなんだなということがわかりましたので、ぜひよろしくお願いします。

○議長（多田政拓君） 以上で9番、内藤圭子議員の一般質問を終わります。
次に7番、三浦恵美子議員の一般質問を許します。

【通告No.7 7番 三浦 恵美子】

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） よろしくお願いします。私は北海道胆振東部地震の検証と防災減災について取り上げさせていただきます。

北海道胆振東部地震から7年、被災した経験を忘れず今後起こりうる災害に備えて町民の命と財産を守る体制づくりのために以下質問させていただきます。

1つ目、発災時における両庁舎と町職員の役割の明確化についての進捗を伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 今議員の方からご質問いただいたのは昨年に引き続きの状況ということですので、昨年の答弁に関連させての答弁となりますのでよろしくお願いします。

ご質問の安平町における災害対策本部体制については、議員より昨年からご質問いただいている件ですが、特に追分側の総合支所に配置されました支所長が、現状の地域防災計画では対策本部の組織において住民対策部長として位置付けられていまして、避難対策・保健医療・環境衛生の統括者となっています。追分地区の災害対応の責任者が不明確ではないかというご指摘を昨年いただいています。

災害対策本部の見直しを含めた地域防災計画の改定については現在鋭意進

めているところでして、既に本年2月また7月に防災会議を開催し、素案の一部を提出して指定機関等からの各種修正意見をいただきながら現在も策定しています。昨年もご答弁させていただきましたとおり、令和4年3月に完成しました北海道胆振東部地震の災害検証報告の内容を踏まえて、特に総合支所長については災害対策本部において事務局の直下に位置づけし総合支所責任者として対応できるように調整を行っていく考えです。

また、大規模災害の発生時については、対策本部の総務総括に属する職員を総合支所に登庁させて総合支所長をフォローするとともに、対策本部で決定するさまざまな決定事項を情報共有できるよう既設のWEBカメラなどの活用も含め検討しています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） まずこれ過年度ずっと聞いていることなのですが、電子機器が使えなくなった時の情報共有をどう考えていらっしゃるのかが1点。

あと組織を変更された内容は、職員に対する共有はどの段階で行われるか、この2点についてお願いします。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 全ての電力等が喪失し電子機器が使えない場合の体制ですが、まず安平町においては防災無線を整備していきまして、防災無線は町の方から直接住民の皆さんに危険であることを発信することと合わせて全ての電力が喪失した場合に蓄電池を設けた無線になっていきまして、双方の対策本部というか庁舎間あと指定避難所21か所とやり取りすることができるシステムになっています。こういったものを対応していくかと思えます。

あと情報共有の部分ですが、どの時期にというお話でしたか。今回10月4日にも職員の訓練をやるのですが、ある程度対策本部にさまざまな情報が集まった段階で、全体の災害対策本部という会議を開催しなければならないと。それがどの時点かは難しいですが、それぞれの被災状況ですとか現状などを各部署でまとめたものを地図上に落としたもので共有していく流れになるかと思えます。その際は総合支所の部分について、本来はこちらの総合庁舎に来ていただくことも原則になりますが、その状況に応じて対応していくしかないかなと考えています。

〔田中副町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 副町長。

○副町長（田中一省君） 補足します。ブラックアウトの関係ですが、重点加速化事業の部分でもご説明申し上げたとおり、地域マイクログリッドも含めた中で電力が使えない状況をなくしていくという計画も一つあると補足しておきます。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） まず大規模災害においてはいろいろなことが想定されて全く電力が使えないことも想定されるので。例えば防災無線が聞こえるか聞こえないかの議論もずっとされてきたと思うのですが、その辺含めた訓練も必要かなというのが1つ。

あと2点目の質問は食い違いがあったのかなと思うのですが、組織を変更されて総合支所長の位置づけを変えた内容を町職員にどのように共有し、その後どう活かしていくかお聞きしたかったのですが、この2点についていかがですか。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 失礼しました。まず1点目の住民への周知方法について、安平町では従来から情報発信の多様化・多角化。複数の手段を持って住民の皆さんに伝えていくと。危ないものは危ないと伝えるのは防災無線ですが、熊対策の時にもご指摘がありましたとおり、聞こえないとか、わからないという部分がありました。昨年度より防災無線で流した情報については、必ずホームページにも同じ内容を掲載するというルールにしていまして現在運用しています。なかなかホームページを見ることができない方もいらっしゃると思います。携帯のエリアメールがありまして、こちらの方はJアラートという緊急情報を流す機械と連動させることも可能になっていますので、そういった観点でなるべく多くの方に最初の非常時の連絡が届くような手段をさまざま講じていきたいなど。その中の1つにあびらチャンネルエリア放送がありまして、こういったものも活用していく考えです。

後段でご質問いただいておりますが10月5日に訓練を行いますが、その際の最初の発信の時にそういったことを意識して防災無線・エリアメール・町ホームページといったもので同様の情報を一回で流すイメージの訓練もしていこうと思っています。

組織の変更について、庁舎内でどのような共有をしていくか。庁舎内では

常日頃から職員間で情報を共有する庁舎内部だけで見られる共有のシステムがありまして、そういったもので職員の周知を図っていく考えです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 情報弱者が出ないように、誰一人取り残さない体制づくりをお願いして次に移ります。

2番目、災害時と要援護者登録制度の登録状況について、現在の進捗を伺います。

〔小板橋健康福祉担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 健康福祉担当課長。

○健康福祉担当課長（小板橋憲仁君） 災害時等要援護者登録制度については、本年9月1日現在で5名となっています。

本制度は平成22年5月より開始したもので、制度開始から最大で58名が登録されていましたが、死亡や転出、施設入所などにより減少しています。この登録は手挙げ方式によるものでご本人の氏名・住所・生年月日・性別・連絡先のほか原則支援者2名が必要となります。ここ数年は新規の登録が無いことから令和3年から総務課防災担当と健康福祉課福祉グループの双方で支援が必要と思われる方の独自名簿を作成し、月に1回名簿照合を行いながら別途更新を行っているところです。

また、社会福祉協議会におきます地域ミーティングにおいて、世帯の状況や現在の様子など自治会・町内会・福祉協力員・民生委員とも共有しながら現在の状況把握に努めています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） きっと対象者はたくさんいると思うのですが、登録者数が5名と伸び悩んでいる状況は、どのようなことが課題と捉えていますか。

〔小板橋健康福祉担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 健康福祉担当課長。

○健康福祉担当課長（小板橋憲仁君） 先ほどのご答弁とも重複しますが、手挙げ方式が最大の課題になっているところかなと認識をしています。こちらについては個人情報全て書いていただくものになっていまして、その中に他で

いきますと普段飲んでいるお薬とか寝室ですね、住宅の地図を描いていただきながら普段ここで寝ていますという地図も必要になったりとかもあって。あと支援者が2名必要ということもありまして、なかなか高齢世帯が多い地域ですとその支援者についても同じような人に支援をお願いするところも、ここも一人で複数の支援をしていかなければならないところも課題として挙げられるのではないかという認識を持っています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 今、教えていただいた課題の打開について、どのように担当課として考えていらっしゃるかをお聞きしたいのですが。

例えば2名の支援者をどうしても付けなければいけないんだと思うのですが、どうしても見つけられないけど心配だから登録したいのですという方がいらっしゃる時はどういう方法があるのか。この2点についてお願いします。

〔小板橋健康福祉担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 健康福祉担当課長。

○健康福祉担当課長（小板橋憲仁君） 課題の打開のご質問をいただいておりますが、まず課題の打開では、先ほども言いましたが地域ミーティングの共有の部分とか民生委員協議会の中でも同じような話をさせていただいて、ぜひ支援が必要だと思われる方についての登録をしていただけるようなお願いをしているところです。これは現在も行っています。

それと2名の支援者の件ですが、こちらについては原則2名ということで、例えば家から車に乗せるために1人で運び出せばいいのですが、中には体格のいい方とか、どうしても2人で抱えて運び出さなければならないことも想定されますので、原則は2名としていますが人によっては1名でそういったことができるのであれば、それはそれで2名にこだわることはないのですが原則2名としているのはそういった理由からです。

その2名がどうしても見つからないということであれば、ここも民生委員協議会の会議の中でもお願いしていますが、これは緊急通報システムの関係とも同じですが、民生委員の方に担っていただくこともお話をいただいています。それとお隣近所の方をお願いするか、それでもご近所付き合いのない方については町内会・自治会にお願いして役員の方に担っていただくといったことで現在対応していただけるものと考えています。

〔田中副町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 副町長。

○副町長（田中一省君） 補足します。なぜ2名かですが、先ほど身体的これも理由があるのですが、DIGの関係で、なぜ2名が必要なのか、その家から避難所に行くルートの確認、そこに危険物があるかどうかも含めた中で2名が必要となっています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） どうしても見つけられない場合は何段階もサポート体制があるということで、対象になるであろう方々には安心して登録もできるということで。登録する時もお手伝い、地図描くとかわからない時もお手伝いできますよね。そういうサポートもあることをお伝えいただいて、周知の方法を今教えていただいた以外に広げることを検討できるかどうか伺いたいのですが。例えば町内会の行事とかに顔を出してどうですかとか、老人クラブに行ってお楽しみ中のところすみませんけどみたいな感じでお話してみるとか、毎年せつかく更新していただいているリストを、多分民生委員さんには共有していると思うのですが、そこら辺含め個別勧奨を強めるなど、何かそういうことを今後の展開として考えていらっしゃるか伺います。

〔小板橋健康福祉担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 健康福祉担当課長。

○健康福祉担当課長（小板橋憲仁君） 再質問の他にご提案もいただいたと思いますが、該当する方がお集まりになっている場でお話していくのは可能なことかなと思っています。ただ登録制度の関係ですが、必ずしも登録が無いから支援が受けられないということではなく、制度がある以上、登録していただくのが理想というか基本的には望ましい形かなと思っていますが、仮に登録が無い方についても先ほども申し上げましたが、こちらで情報は名簿として持っていますので、この登録制度自体にこだわっているものではないのですが、できるだけ多くの方に登録していただけるような方策も今ご提案も含めて三浦議員から言っていたので、その辺も含めて考えて対応していければと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） この登録制度の周知は、私自身がそうなった時にどう

いうふうに避難できるかなということをお一人お一人考えていただくきっかけになればいいと思っていて毎年お聞きしているのですが、そういう支援をしていただけるということで、今後引き続き大変かと思いますがよろしくお願いします。

次、3番目。令和7年度安平町防災訓練についての概要を伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 平成30年に発生した北海道胆振東部地震以降、新型コロナウイルス感染症のまん延等もあり、これまで小規模な対応訓練のみを行ってまいりましたが、先の震災の記憶や教訓を忘れることのないよう今年度は10月4日に職員を対象とした災害対策本部の設置までの訓練を。また、10月5日日曜日には町民を対象とした体験型の訓練を企画しています。このうち10月5日に開催する体験型の訓練ですが、大きく分けて3つの構成としています。

1つ目として、町の防災無線等を合図に、それぞれのご家庭で行っていただくシェイクアウトプラスワン訓練。このシェイクアウトとは身を隠す、身を守る訓練です。プラスワン訓練は各ご家庭において火の元を確認してみたり防災グッズはどこにあるのかを確認してみたりといった訓練を各家庭で行っていただくというものです。

2つ目として、この日に合わせて各自治会や町内会及び自主防災組織などにご協力をいただきまして自主的な訓練の実施を企画いただくこと。

そして3つ目として、より多くの町民の方に防災知識や災害時の対応について学んでいただく体験型の訓練を実施するものです。

今回、初の試みの部分も多くありまして、詳細決定に時間を要した部分もありまして、町民への周知ですとか自治会・町内会・自主防災組織の皆様には大変ご迷惑をおかけしているところですが、こうした体験型の防災イベントを定着させて各団体が年間行事に組み込んでいただけるような興味を引くコンテンツを企画し、参加された方が防災に関する知識を自然と参加しながら身に付けていただくような機会になることを今後も継続していきたいと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 担当課としてとても苦勞されて企画をされて、私も話を伺った時はいい企画だなと思ったのですが。こちら今年今月6月の広報に掲載されたと思うのですが、この広報を見た町民からこの内容よくわからな

いなくて言われたので事実確認をさせていただきたいのですが。

まず1点目が追分地区の2つの自主防災組織のみが検討中の自主防災組織による訓練案として掲載されているのはなぜかが1点。

安平町の防災訓練と命題を打って書いてくださっているのですが、実際の安平地区、早来地区、遠浅地区は訓練を行わないのですかと。メイン会場へのバスは運行が無いのでしょうかというこの2点が主に聞かれたことなのですが。その点は企画された担当課として、どのようにイメージしてどのように広報したのか、この点について伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） まず追分地区のチラシに2地区のみ対応する訓練を掲載するというのは、これこそ最初申し上げたとおり周知が遅れてしまったところもありまして、この広報を出す前に各町内会様の方を何箇所か廻らせていただきまして、こういった訓練をやるので一緒に計画を立てていただけないかというご相談をした際に、その後うちこういうふうにやりますと明確に言っていただいたところがこの最初の2件でして。それ以外についても計画をしているところがありますので、それぞれの自治会・町内会からの情報をお待ちくださいみたいな表現にさせていただいています。表現がわかりにくくなった部分があるかと思いますが、趣旨としてはそのような趣旨になっています。

あと追分地区のみのような形で、安平町防災訓練でありながら他の早来とか安平地区はどうなのでしょうかというご質問ですが、後段で各自治会・町内会様、会長宛てでしたが、こういった訓練の趣旨で行うのだけれどもこれに合わせて各自治会で検討していただけるものがあれば防災の担当にご相談くださいというご案内をさせていただきました。先ほどもある自治会の方から全体的な訓練は農作業の関係があってできないんだけど、今自分のところでは自主防災組織内の連絡網を作っているのをこれを回す訓練、連絡情報伝達の訓練をさせていただきたいので参加させていただきたいというお話も早来地区からいただいています。なかなか町内4か所の地区があって1か所でやるのは難しいところがあるのですが、バスの運行についても考えていますので、早来地区の方もメイン会場がどうしても追分公民館になってしまいましたが、参加できるような対応でいきたいと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 大変なご苦勞をされて準備不足もあったとおっしゃっ

ていただいたのですが。限定した地区の自主防災組織を書いてしまうと若干誤解を生むというか。そしたら私たちは取り残されたのだろうかと思う方もいらっしゃるし、安平町全体として自主防災組織の運営や避難訓練を考えていただきたいのが1つ。

バスの運行を考えて、今年やろうかなと思ってらっしゃるのでしょうか。となるとこれ書いていましたっけ、広報に。書いてなければどのように広報していくのか。期限も少ないのですが、どう広報して、より一人でも多くの方がこのメイン会場へ集まるその体制を取れるのか。ただ、このタイムスケジュールを見ると、バスを回してメイン会場まで来るのは出入り自由なのでしょうけど厳しいスケジュール観にもなっていると思うのですよね。そこら辺含め来年度以降も改善されていくのかとは思いますが、現時点ではどのように整理されているか伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 非常に難しいやり方というか、どうしてもメイン会場を1か所にしてそこに参加される方にバスをとなった時にどれだけ参加していただけるかもあるので、そこについては開催日までに検討させていただきたいと思います。

ちなみに22日に各戸配布で別刷りチラシを入れるのですが、そこにもバスの掲載はできませんでした。これは自主防災組織で考えていらっしゃる避難訓練、これは2か所だけではなく町内、特に追分地区になりますが、避難訓練を実施するということで最終的にメイン会場まで二次避難をいただく訓練の内容になっていることについてもバスの対応だったりさせていただく部分がありまして、どうしても広報まで至っていないのが現状です。このイベントは日曜に開催するというのはより多くの方に参加いただいて、これはお子様も含めて届くようにイベントを企画しているものでして、これを継続させていきたいなと考えていますので、これは場所を変えることもあるでしょうし、ずっと追分でやるわけではなく、町内の各地区で毎年やっていく流れで考えていますので。なかなか行き届かないところがあるかと思いますが、今回の実施において出てきた反省点を活かしていきたいと思います。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 来年度以降、今回の教訓を得て改善されると思うのですが、うちの自治会町内会は聞いていなかったということの無いような周知を来年度以降は考えていただきたいのと、来年度以降の取り組みについて会

場を移動してやろうかなとかいろいろ伺ったのですが、町民が全体で参加できる体制づくりを進めていただけると思うのですが。例えば4地区、公民館とかあると思うのですが、毎年そこを回してバスを送迎する体制もきちんと構築してタイムスケジュールも余裕を持ってやっていただけるかどうか、その辺も考えていただけるかどうか最後に伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） まず、各地区を回していく。どこまで施設のキャパシティもあるので、4地区を順番に回していくことができるかどうか検討させていただきたいのですが、いずれにしてもこういった機会に防災意識といったものを自然と学べる機会を作っていくことが今後求められている、防災訓練という名称も堅いのですが、そういったイメージですので、住民の方が幅広く参加いただけるような体制が取れるように対応していきたい、検討していきたいと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） では、大変でしょうけどよろしくお願いします。

次、4番目。自主防災組織と行政の連携について。以下3点について伺います。

1点目、自主防災組織結成後の対応について伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 自主防災組織を結成された団体に対するフォローアップについてのご質問と推測しますので、答弁させていただきます。これまでも結成された自主防災組織ごとにその濃淡はありますが、各団体で自主的な訓練を実施される際に我々防災担当側にお声がけをいただきまして一緒に企画実施したいというご依頼があれば、その都度対応させていただいたところ です。

また昨年11月ですが、その年に開催された自治会長等会議におきまして、自主防災組織間の情報交換の機会を作っていただきたいというご意見もありましたので、昨年11月に自主防災組織等にお集まりいただきワークショップを開催しています。今後も防災における共助の重要性に鑑み、このような対応に尽力してまいりたいと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） いい取り組みをしていただいているのですが、まだちょっとどうなのでしょう、周知の方がどうなっているのかなと思うのですが。結成後の活動について誰に相談したらいいかわからないという声が最近聞かれたのですが、どう対応しているのか。例えば自主防災組織を大切だからやってみようと言って結成した組織があったとして、その後どうしたらいいか迷っている方もいらっしゃる方もいらっしゃると思うので、そこら辺、担当が誰か顔が見えるように進めていただけるかどうか、どのような対応しているかについてお願いします。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 活動後に結成されたところへのフォローが不足しているのではないかというお話かと思います。結成後の課題で自治会町内会の母体と同様の課題になるかと思いますが、各自主防災組織においては組織の高齢化や若者の不足、不参加といったものとともに独自の取り組みのマンネリ化など課題があると全国的に認識があると認識しています。

行政側としては、まず窓口になる職員を議員の方はどのような案をお持ちなのか存じ上げないのですが、まずは防災担当というのが役所には居りますので、そちらが担当窓口になろうかと思います。地区ごとに現段階で張り付いているものではないという認識になります。

あとサポートの方法ですが、各種情報提供それから自主防災の自主的な訓練のサポート、先ほど申し上げた自主防災組織間の連携を促進するような取り組みといったものでサポートをしているのが現状になろうかと思います。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 防災担当の方がどういう方か。顔が見えて安心して相談できる体制が大事ではないかと思ったところで次の質問につなげていきたいのですが。

発災時の避難所運営・対応について、こちら行政と自主防災組織での連絡体制、運営主体の移管等について不安を感じている町民の方、自主防災組織の方がいらっしゃる、この点についてどのように対応されるか伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 今回の防災訓練の関係でお話を各自治会等にお話をさせていただきましたところ、その役員会の席で私も同様なお話をいただきました。胆振東部地震の発災時には町が能動的に開設した避難所もありましたが、実際に避難者が避難されてきて自治会・町内会が避難者に対応して自主的に開設した避難所も混在していたと記憶しています。大規模な災害が発生すると役場側もさまざまな対応で混乱をきたしており、ルールどおりの運用は難しい部分もありますが、前回の教訓を踏まえ町内の主要な避難所については駆けつける担当職員の割り当て、要は発災して集まって誰々はどここの避難所を開けるという決定ではなく、あらかじめ職員の割付けをしておくということで自主防災組織と共有が必要ではないかと考えており、今後検討を進めていく考えです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 避難所の運営に関しても町職員の顔が見えて安心して情報共有しながら進めていけることが大切かなと思うのですが。どのような形でそちらを進めていくのか。例えばですが官民連携した避難訓練、そういう情報共有・開設の訓練など今後にも必要になってくるのではないかなと。そういう訓練ができれば例えば自主防災組織の方が不安に思っている開設はしたけど、どの時点で行政にその運営の主体を移管していくのかとかどういうタイミングで避難所閉鎖になるのかなとか、発災の時は混乱もしますけど少し落ち着いて運営もできるかなと思うのですが、そこら辺今のところどう考えていらっしゃるか伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 実際に昨日も今回の訓練に合わせて避難訓練をしたいという自治会の方から同じようなお話をいただいたのですが。できれば近くに住んでいる町職員に駆けつけてもらった方が顔がわかるので、いろいろなお願い事ができるというお話をいただきました。私さっき割り当てをさせていただくと申し上げたのですが、誤解が生じないように申し上げると一番最初のご質問にもあったとおり、役場は役場で災害対策本部を設置しますと、現状の仕事に合わせて指揮命令系統、例えば健康福祉課であれば避難所

の対応、総務課であれば全体の仕切りといったものが決まっていまして、居住別に発災時にすぐに避難所に顔見知りの人間が駆けつけると、それこそ災害対策本部自体の機能が薄れてしまう。これは前回の災害の時にもそういった傾向があったので、特に迫分地区においては本当のその災害対策本部の指揮命令系統なのか、避難所に直接行ってそこで対応していた中での対応になってしまうのかが不明確になったという教訓もあるので、ここは町内会の皆さんにとっては顔の見える職員を配置していただきたいというお話もありますが、これはあくまで災害対策本部としての対応でいきたいと考えています。その上で、準備として迅速に行動するために避難所を開設するにあたっては、もともと誰がどこを開けるのかといったものは定めるべきという認識ですので補足させていただきます。

あと避難所の主体の関係ですが、避難所の初期段階、発動期においては混乱した中で避難所を開設して避難者の生命の安全確保を行うというもので、安平町においては令和2年に避難所の運営マニュアルを策定しています。これは確か議会にも行政報告をさせていただいたかと思います。その中で開設の基準やチェックリストを定めるものですが、まず避難所は開設の判定については基本的に災害対策本部で設置をする役割を持っています。その上で誰がそのイニシアティブを取ってリーダー役になるかは非常にケースバイケースになっていますが、基本的には今のマニュアル上はその地域にいらっしゃる自主防災組織ないしは町内会長、自治会長といった方に委ねるんだと。職員が対応するのは災害対策本部とその現場の避難所との橋つなぎというか運営にも携わるのですが、役割としては防災会議、災害対策本部での決定事項等をその避難所の方に伝える伝達役という位置づけになっていまして、基本的にどの段階でイニシアティブをどちらがリーダー役になるのかと言えば避難所の開設にあたってのマニュアルでは最初からその自主防災組織側にあるのが今の作りになっています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 次、各避難所における要支援者の受け入れ態勢について伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 支援が必要な方の避難体制、避難所に関する対応については、地域防災計画、避難所運営マニュアルの対応として地域内の公民館4か所が指定されている福祉避難所での受け入れとなります。

なお4地区の公民館は各地区の指定避難所でもあり、一般の方の避難所としても開設になりますので、福祉避難所が不足する場合には個室や食事提供等の設備を備えた宿泊施設、高齢者関連施設を活用することも想定しています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 例えば4地区の指定避難所に行く前に、地域の自治会館などに一次避難として来られた要支援者をどのように受け入れるか。その受け入れ体制について行政としてはフォローすることができるのか。例えば保健師などに相談をできる体制を取れるということがあるかどうか伺います。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 先の胆振東部地震の時は自分も避難所運営側に回っていたので、支援が必要な福祉避難所に入られる方と一般の方がどうしても最初は混在していたのが苦い経験でした。

現在、このマニュアルでその受け入れ先というか福祉避難所を開設する流れになりますので、普通の一般の指定避難所に来られた方についてはそこに配置されている職員を通じて健康福祉課等と協議して、その福祉避難所に入るべきなのか医療機関に移すべきなのかといった判断がなされるかと思っています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） そちら周知の方も合わせてお願いします。

次、5つ目。避難所として利用する公共施設へのエアコン設置について。昨年9月定例議会の一般質問でもお伺いした経緯もあるため、その後の進捗を確認させてください。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 避難所のエアコンの設置ということで、全般的ですが私からご答弁させていただきます。町内には35か所の指定避難所があり

ますが、このうちいずれかの部屋にエアコンが設置されている避難所については全体で12か所、設置率は34.29%となっています。

なお、避難所のエアコン設置については早来学園の開設を皮切りに特に教育関係施設が順次行われている、教育関係施設といっても地区公民館といったところを重点的に現在整備が行われている現状です。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 町所有自治会館については今年自主的に設置した自治会が1自治会あり、自治会館のエアコン設置率は9.1%となっています。またその他、町への設置要請が2自治会町内会ありました。

今年は町内でもエアコンが設置されている施設においてクーリングシェルトーを実施するなどしたことから、町所有の自治会館を管理していただいている自治会・町内会に対しエアコン設置についてのアンケート調査を行いました。今後、今回のアンケート調査をもとに引き続き検討していきたいと考えています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 設置率などを伺ったところ、まだ低い感じだなと捉えたのですが。例えば今年度設置が行われた11か所のクーリングシェルトーまでご自宅が遠いお年寄りなんかは暑さのなか徒歩で行くのは熱中症のリスクも高める危険性があるなと思ったのですが。エアコンの設置場所を増やすことによって避難所の運営の時だけでなく、平時でも地域のクーリングシェルトーとしての機能とか、涼しいところを求めて地域のコミュニティの場としてもより活用できるのではないかなと個人的に思うのですが。この設置に関してどのような順番を付けて今政策を打ち出して進めているのかどうか。この優先順位について伺います。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 今のご質問はクーリングシェルトーの話になっていますが、いずれにしてもクーリングシェルトーとして常設で空調が完備している所がまだ数が限られていますので、これから段階的に整備していかなければならないという話は前回の話でも出ていたと思うのですが。昨年の実施計画の段階で指示させていただいたのは、例えば追分公民館や早来の公民館も

エアコン設置させていただきました。大規模な避難所にも使われた教訓を活かしてまずは大ホールを優先的に設置させていただきながら、町民センターについては個室の避難所にも対応できることとして合宿所の機能がメインですが整備が完了したところです。遠浅、安平の公民館も一応1か所ずつはあるのですが、まだ他の集会室・研修室等については付いていませんので、いっぺんにはなかなか難しいのですが、現在付いていないところには1か所、1か所付いているところには複数個所という形でできる限り設置している施設が先ほどのパーセントがまず3割超えたばかりですし、自治会の方ではほとんど付いていない自治会・町内会館には付いていないのが実態ですので、設置の支援メニュー等も国等でも内容によっては用意をされてきている部分もありますので有効活用しながら、場合によっては家庭用のエアコンで十分対応できる施設も多数ありますので、経費がかからなくて速やかに設置できるところも総合的に判断しながら、気持ちとしては北海道が昔と違ってこの6月からちょうど9月の前半まで夜も含めて暑い日が続いていますので、そういった状況を鑑みながらスピード観を持って対応していきたい思いです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 今ご答弁いただいたとおり、交付金のメニューも出てきていると伺ったのですが。例えばまちづくり支援推進交付金とか空調設備臨時特例交付金、こちらは令和15年度までと決まっているのですが、こちらそれぞれもし要件が合うようでしたらこちらもご検討いただきたいと思うのですが、交付金等は町長がよくわかってらっしゃると思うのですが、活用についてはタイミングも大事なので、できるだけ使えるものを探して進めていっていただけないかなと思うのですがいかがですか。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） おっしゃるとおりでして、補助メニューが充実してきて北海道の町村会だったり市長会もそうですが、そういった声も上げさせていただいていますので。そういった支援が少しずつ用意されてきていると承知していますので、最大限活用しながらこの15年でそれで打ち切るのか再延長になるのかは不確かですが、まずは15年の目途に向けて整備を、先ほど言った最低1か所は付けていけるようにしていかなければならないと思っていますし、先般、健康福祉課と相談した時には介護施設でもそういったメニューが出て、例えば今年度中にできるものであれば速やかにみたいな、補正予算を組んででもやっていくという話し合いも出てきていますので。町の公共

施設だけではない部分も含めて、繰り返しになりますができるだけ早い段階で環境が整うように、また前段としてゼロカーボンといったところにも資するような形での配慮も合わせて行っていきたいと思っています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） よろしくお願ひします。

最後の質問に移ります。令和元年12月策定の復興まちづくり計画について。行政として計画全体をどのように検証を行っているか伺います。こちら計画上の事業が完了したとの答弁を受けての質問となっています。

〔木林企画財政担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 企画財政担当課長。

○企画財政担当課長（木林一雄君） 復興まちづくり計画は、令和元年度から4年度までを計画期間として総合計画、中期基本計画と一体的に復旧復興事業が進められ、計画期間が満了する前の令和4年9月28日開催の全員協議会において中期基本計画の評価検証とともに復興まちづくり計画の評価検証をご説明していますので、1回目の答弁では検証結果の概要をご説明申し上げます。

はじめに取り組みの進捗になりますが、全員協議会の際は令和3年度末時点の進捗状況をご説明しましたが、改めまして計画期間満了後の令和4年度末の取り組み実績からご説明申し上げます。復興まちづくり計画は復興に向けた取り組みについて4つの基本方針を掲げ、1つ目に住まいと暮らしの再建、2つ目に災害に強い町・人づくり、3つ目に産業と経済の復興、4つ目が未来へつながる復興、この4つの方針のもとに170以上の事業があるわけですが、それを分類した中分類になりますが、中分類が59の分類に分けられるのですが、全体で59の分類があるなかで、取り組みが完了したものは21の取り組み。率に直しますと36%になります。令和5年度以降に継続、着手済みの取り組みが38、率に直すと64%となっています。未着手の取り組みはゼロとなっています。

次に今度も継続した必要な取り組みとして、被災者の心と体のストレスの軽減さらには地域での見守りやサポートなどは今後も継続した取り組みが必要である旨の検証をしています。

最後に震災で醸成された自助・共助・公助の協力関係の構築と役割理解、防災教育との継続な取り組みによる地域防災力の向上など、今後の災害に備えた取り組みなど震災の経験などを今後活かすことが重要であるということで検証結果をまとめているところです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 取り組みが必要な部分があるということでおっしゃっていただいたのですが、心と体のストレスの軽減といったサポートとおっしゃっていただいたのですが、確か安平町の健康診断の時に集めていらっしゃる心のアンケートがあったと思うのですが、こちら集めた結果についてはどのように活かされているのか、まず伺います。

〔小板橋健康福祉担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 健康福祉担当課長。

○健康福祉担当課長（小板橋憲仁君） 心のアンケートの関係でご質問いただきました。こちらについては臨床心理士にお願いをしまして、分析も含めてのお願いなのです、委託なのですけれども、その結果に基づきまして訪問が必要な方とか電話相談をして連絡を取りながらその状況を確認するといったことを保健師と一緒にやって対応させていただいている状況になっています。こちらについては臨床心理士のご都合もあって、頻繁ではないですがある程度定期的な形で該当者にはご連絡をとりつつ相談に乗っていただける体制で、必要に応じて医療機関につなげるといった対応をさせていただいています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 継続した支援が必要な方がいらっしゃるということで何度か答弁で伺っているのですが、計画上こちらは物理的な事業が完了したという意味なのでしょうか。本当の意味でどう復興しているのか。何ををもって復興しているのかが疑問に思っているところですが。昨日の同僚議員の質問にもありましたように、被災した旧早来中学校の解体も費用がかかるからできないという、毎年そういうご答弁だったのですが、置けば置くほどお金、管理経費含めかかりますし、防犯上もよくないなと昨日も改めて思ったのですが。また、町内の道路も被災後傷んだままになっていたりとか、物理的にも災害の爪痕が残されていると思うのですよね。それを見ると町民の方もまだ元気になれないなと思うし、生活上も危ないです。そこら辺含めまだ復興したとか完了したっていうのは拙速ではないかと思うのですが。

先ほど答弁いただいた今後も継続した必要な取り組みがあるとの検証結果にもあるように町民の方、今でも心に傷を負った被災者も少なからずいらっ

しゃって災害復旧事業が終わったとか復興まちづくり計画の事業が完了したと聞かされた感じ、私たち忘れられているんじゃないかって訴えている方もいらっしゃる。被災した町民にとっては本当の復興とは何か、これは被災した町民に直接聞く必要があるのではないかとというのが1点。

本当の意味で毎年検証と言っているのですが、本当の意味で生きた活かされる検証となるためには、被災した町民の声を直接聞いていくことが大事なと。直接聞き進めていくことが大切だと感じるのですが、その件に関して強く要望したいのですが、そのような同じ認識で進めていただけるのかどうか最後に伺います。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 時間も無いようですが、総合計画の後期計画で復興まちづくり計画が中期計画の際に整理されて、そこでまだ継続中を含めて後期計画に4年間に盛り込む形で総合計画は整理させていただいています。

前段、町民センターの耐震化に合わせた復興事業といった大きな事業については令和6年度をもって完了したのは申し上げさせていただいていますが、当然さまざまな課題は連続していますし、また震災が無くてあった課題がさらにそこが強くなってきているものあるかと思えます。

また、町道・歩道の補修工事といったところも計画的にやってきましたが、そこが震災によって大きく先送りしたところもありますので、そういった意味においては震災の影響は今もいろんな形で、先ほどご指摘いただいた昨日もご指摘いただいた旧早来中学校の解体についてもそういったことだと認識していますので。

私が震災に対する復興のメッセージが町民の方にとって辛いという気持ちにさせてしまうのであれば、言い方についてはこれからさらに注意していかなければならないかなと思っています。

いろんな課題も含めて町政懇談会だったり自治会長等会議だったり、先ほどの職員が戸別訪問する中での聞き取りだったり分析だったりさまざまな形で町民の声を聴きながら、震災だけではなく日頃の行政課題にも向き合ってその対応に心がけていかなければならないと認識しています。時間の関係で端折りました。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） では、町民の方に向けていろいろ発信していただきま

すようよろしくお願いします。以上で終わります。

○議長（多田政拓君） 以上で7番、三浦恵美子議員の一般質問を終わります。

以上をもちまして本定例会に通告された一般質問は全て終了しました。
ここで13時まで休憩とします。

休憩 午後 0時2分

再開 午後 1時00分

○議長（多田政拓君） 休憩を解いて会議を開きます。

ここで午前中の三浦議員の一般質問の答弁に関し、総務担当課長から発言を求められていますので、これを許可します。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 先ほど三浦議員からの一般質問において総合防災訓練に関するご質疑のなか、10月5日の追分公民館での訓練に関して追分地区以外の方に対するバスの運行について、私の方から検討していると申し上げましたが、当初そのような想定をしていたところですが、第一に実際にあの自主的に訓練を行っていただくこととなった自主防災組織の二次避難等において町のバスを使用することや、議員がおっしゃるとおり実施する全体スケジュールなども今回の場合考えますと、今回の試みでは実質違う地域からに対するバスの運行は難しいと考えています。

議員からのご質問では町民からのご意見ということもありましたので検討していると回答させていただきましたが、今回の訓練においては追分以外の3地区に対するバスの運行は行わないものとし、答弁を変更させていただくとともに三浦議員からは安平町の総合防災訓練という名称であれば全地区の配慮をというご指摘いただきましたので、次年度以降の開催に向けての反省とさせていただきたいと思います。

以上、修正の答弁とさせていただきます。

○議長（多田政拓君） 三浦議員よろしいですか。

○議長（多田政拓君） それでは引き続き会議を続けます。

◎ 日程第 2 ～ 7 認定第 1 号～第 6 号

○議長（多田政拓君） 日程第 2、認定第 1 号 令和 6 年度安平町一般会計歳入歳出決算の認定についてから日程第 7、認定第 6 号 令和 6 年度安平町下水道事業会計決算の認定についてまで、以上 6 件を一括議題とします。説明を求めます。

〔田中副町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 副町長。

○副町長（田中一省君） 只今、議長から令和 6 年度安平町各会計決算の認定については一括議題とする旨の説明がありましたので、案件朗読、提案説明は認定第 1 号のみとさせていただき、認定第 2 号から認定第 6 号までを省略し、別添、監査委員の審査意見書、地方自治法第 233 条第 5 項に基づく主要な施策の成果を説明する書類として主な公共施設の収支状況、令和 6 年度指定管理者制度導入施設決算状況及び利用者人数一覧、別冊で主要な施策の成果を説明する資料（100 万円以上の投資事業）並びに令和 6 年度予算流用・予備費充用等を記載した令和 6 年度歳入歳出決算資料を付して、それぞれの歳入歳出決算書の総括表をもって提案説明とさせていただきます。

それでは、認定第 1 号について朗読いたします。

認定第 1 号

令和 6 年度安平町一般会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 3 項の規定により、監査委員の意見を付して、令和 6 年度安平町一般会計歳入歳出決算の議会の認定を求める。

令和 7 年 9 月 17 日提出

安平町長 及 川 秀一郎

認定第 2 号

令和 6 年度安平町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第3項の規定により、監査委員の意見に付して、令和6年度安平町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の議会の認定を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

認定第3号

令和6年度安平町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第3項の規定により、監査委員の意見を付して、令和6年度安平町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の議会の認定を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

認定第4号

令和6年度安平町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第3項の規定により、監査委員の意見を付して、令和6年度安平町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の議会の認定を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

認定第5号

令和6年度安平町水道事業会計決算の認定について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第4項の規定により、監査委員の意見を付して、令和6年度安平町水道事業会計決算の議会の認定を求める。

令和 7 年 9 月 17 日提出

安平町長 及 川 秀一郎

認定第 6 号

令和 6 年度安平町下水道事業会計決算の認定について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第 4 項の規定により、監査委員の意見を付して、令和 6 年度安平町下水道事業会計決算の議会の認定を求める。

令和 7 年 9 月 17 日提出

安平町長 及 川 秀一郎

お手元に配布しております、令和 6 年度安平町各会計歳入歳出決算書の 1 ページをお開き願います。

令和 6 年度安平町一般会計歳入歳出決算の概要について、ご説明いたします。歳入合計99億9521万4399円、歳出合計98億 7 万8107円、歳入歳出差引残額は 1 億9513万6292円となりますが、内訳 2 行目の明許繰越額5861万7000円及び 3 行目の事故繰越額はありますが、これらを差引いた 1 億3651万9292円が実質収支額となりますので地方財政法第 7 条第 1 項の規定に基づき、この 2 分の 1 を下回らない額である6900万円を財政調整基金への繰入額として 1 億2613万6292円を翌年度繰越額とするものです。なお、内訳に記載しているとおり、明許繰越額及び事故繰越額を差引いた6751万9292円が一般繰越額となります。

次に179ページをお開きください。認定第 2 号、令和 6 年度安平町国民健康保険事業特別会計、歳入歳出決算の認定についての決算概要についてご説明いたします。歳入合計 8 億3274万7335円、歳出合計 8 億2283万9112円、歳入歳出差引残額は990万8223円となりますので、同額を翌年度繰越額とするものです。

次に197ページをお開きください。認定第 3 号、令和 6 年度安平町後期高齢者医療事業特別会計、歳入歳出決算の認定について、決算概要についてご説明いたします。歳入合計 1 億6178万1778円、歳出合計 1 億6087万4978円、歳入歳出差引残額は90万6800円となりますので、同額を翌年度繰越額とするものです。

次に206ページをお開きください。認定第 4 号、令和 6 年度安平町介護保険

事業特別会計、歳入歳出決算の認定についての保険事業勘定、歳入歳出決算の概要についてご説明いたします。歳入合計10億6880万4923円、歳出合計8億8411万3504円、歳入歳出差引残額は1億8469万1419円となりますので、同額を翌年度繰越額とするものです。次に227ページをお開きください。令和6年度安平町介護保険事業特別会計介護サービス事業勘定、歳入歳出決算の概要についてご説明いたします。歳入合計938万7924円、歳出合計572万5880円、歳入歳出差引残額は366万2044円となりますので、同額を翌年度繰越額とするものです。

次に認定第5号、令和6年度安平町水道事業会計、歳入歳出決算の認定についての決算概要についてご説明いたしますので、別冊で配布しております決算書の1ページをお開きください。決算報告書（1）収益的収入及び支出の収入区分、第1款水道事業収益は決算額4億587万1612円で、備考欄の仮受消費税及び消費税還付金256万24円を差引くと3億8731万4441円となり、15ページに記載しています収益合計と一致します。下段、支出区分の第1款水道事業費用は決算額3億4150万819円で、備考欄の仮払消費税を差し引いた額に4. 雑支出、仕入税額控除分3万9228円を加算すると3億2794万6567円となり、17ページに記載しています費用合計と一致します。収益的収支の差引額5936万7874円は当年度純利益となり、この額は3ページの損益計算書、当年度純利益、また8ページのキャッシュフロー計算書、当期純利益と一致します。営業損失、経常利益の内訳につきましては3ページの損益計算書をご参照願います。2ページ、（2）資本的収入及び支出の収入区分、第1款資本的収入は、決算額7075万3140円となり、18ページに記載しています収入合計と一致します。下段、支出区分の第1款資本的支出は決算額1億5370万2224円で、備考欄の仮払消費税を差し引くと1億4830万3514円となり、19ページに記載しています支出合計と一致します。資本的収支決算額の不足額は8294万9084円となり、この不足額は、消費税調整額399万9710円、当年度損益勘定留保資金4410万5208円及び減債積立金3484万4166円にて補填しています。9ページから14ページまでは令和6年度安平町水道事業報告書を記載しておりますのでご参照願います。これは地方公営企業法第30条第4項の規定により、令和6年度安平町水道事業会計決算の議会の認定を求めるものです。

次に認定第6号、令和6年度安平町下水道事業会計、歳入歳出決算の認定についての決算概要等について説明いたしますので、別冊で配布しております決算書の1ページをお開きください。決算書1ページ、決算報告書（1）収益的収入及び支出の収入区分、第1款下水道事業収益は決算額7億3029万9702円で、備考欄の仮受消費税及び消費税還付金488万5300円を差引くと7億2783万1347円となり、16ページに記載しています収益合計と一致します。下段、支出区分の第1款下水道事業費用は決算額6億2844万3954円で、備考欄の仮払消費税を差し引いた額に雑収入、仕入税額控除分201万8030円を加算すると6億1644万9743円となり、18ページに記載しています費用合計と一致し

ます。収益的収支の差引額 1 億1138万1604円は当年度純利益となり、この額は 3 ページの損益計算書 当年度純利益、また 8 ページのキャッシュフロー計算書、当期純利益と一致します。営業損失、経常利益の内訳につきましては 3 ページの損益計算書をご参照願います。2 ページ (2) 資本的収入及び支出の収入区分、第 1 款資本的収入は決算額 3 億7781万1052円となり、19ページに記載しています収入合計と一致します。下段、支出区分の第1款 資本的支出は決算額 3 億9256万8650円で、備考欄の仮払消費税額435万7000円を差し引くと 3 億8821万1650円となり、18ページに記載しています支出合計と一致します。資本的収支決算額の不足額は1475万7598円となり、この不足額は引継金856万4000円、消費税調整額143万7333円、利益余剰金475万6265円にて補填しています。9 ページから20ページまでは、令和 6 年度安平町下水道事業報告書を記載しておりますのでご参照願います。これは地方公営企業法第30条第 4 項の規定により、令和 6 年度安平町下水道事業会計決算の議会の認定を求めるものです。

以上、令和 6 年度安平町一般会計ほか 3 特別会計及び水道事業会計並びに下水道事業会計の歳入歳出決算の提案説明を終了させていただきます。ご審議のうえご認定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（多田政拓君） ご苦労様です。説明が終わりました。

お諮りいたします。認定第 1 号から認定第 6 号までの令和 6 年度各会計決算の認定については、議会運営委員長の報告のとおり議長及び議会選出監査委員を除く 8 名の議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託のうえ次の定例会までの閉会中の継続審査にすることにしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認め、そのように決定しました。

只今設置されました決算審査特別委員会の委員の選任については、委員会条例第 6 条第 4 項の規定により、議長が会議に諮って指名することになっていきますので指名します。

1 番 工 藤 秀 一	2 番 米 川 恵美子	4 番 鳥 越 真由美
7 番 三 浦 恵美子	8 番 箱 崎 英 輔	9 番 内 藤 圭 子
10 番 高 山 正 人	11 番 梅 森 敬 仁	

以上、8 名を指名します。これにご異議ありませんか

(「なし」の声あり)

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって只今指名したとおり決算審査特別委員会の委員が決定しました。

次に特別委員会の委員長及び副委員長を選任いたします。特別委員会の委員長及び副委員長は、委員会条例第7条第2項の規定により委員会において互選することになっています。

只今選任された決算審査特別委員は、休憩中に議員控室において委員会を開催し、正副委員長の互選を行い、速やかに委員会の構成を得るよう委員会条例第8条第1項の規定によりここに招集いたします。

それでは暫時休憩いたします。特別委員は議員控室へ移動し、正副委員長を互選願います。13時35分を目途にお願いします。

休憩 午後 1時18分

再開 午後 1時24分

◎ 決算審査特別委員会正副委員長互選の結果報告

○議長（多田政拓君） 休憩を解いて会議を開きます。

諸般の報告をいたします。休憩中に特別委員会において委員長及び副委員長の互選が行われ、その結果報告が議長の手元にまいりましたのでご報告いたします。

決算審査特別委員会委員長に、4番鳥越真由美委員、副委員長に2番米川恵美子委員。以上のとおり互選されたとの報告がありましたので、お知らせいたします。

また、決算審査特別委員会については10月30日木曜日、31日金曜日の2日間の日程で開催したいと委員長から申し出がありましたので、併せて報告いたします。

◎ 日程第8 議案第1号

○議長（多田政拓君） 日程第8、議案第1号 町政功労賞被表彰者の同意についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 議案第1号朗読

議案第1号

町政功労賞被表彰者の同意について

安平町表彰条例（平成18年安平町条例第190号）第3条に定める町政功労賞の被表彰者として、次の者を決定したいので、議会の同意を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

町政功労賞の被表彰者に決定しようとする者

田 村 興 文

（提案理由）

永年にわたり町政の振興発展に寄与し、その功労が特に顕著である上記の者を町政功労者として決定したいので、安平町表彰条例第4条の規定により、議会の同意を求めるため提案するものである。

それでは町政功労賞被表彰者の略歴につきましてご説明いたします。今回同意を求めます田村興文氏の住所、生年月日、職業、略歴は記載のとおりでございます。

なお、町政功労賞被表彰者功績といたしまして、氏は平成15年から早来町議会議員、安平町議会議員、また安平町議会副議長の公職を歴任され、議会議員として永きにわたり町政の発展に尽力された功績は誠に顕著なものがございします。

引き続き、町政功労賞被表彰者決定同意の議案提出に至る補足説明をいたします。令和7年度における町政功労賞等の選考にあたりましては8月18日に町長より諮問を受け、安平町表彰条例第5条で定める安平町表彰者等選考委員会を9月1日に開催し、審議の結果、町政功労賞1名、社会功績賞2名、産業功績賞5名、教育功績賞1名の計9名を全会一致で決定された旨、答申を受け、今議会において安平町表彰条例第4条の規定に基づき、これらのう

ち町政功労賞被表彰者の決定について同意を求めるものでございます。

以上、ご説明申し上げ、ご審議のうえご同意くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これより意見調整のため暫時休憩します。議員の皆さんは議員控室に移動をお願いします。13時35分までを目途とします。

休憩 午後 1 時 28 分

再開 午後 1 時 31 分

○議長（多田政拓君） 休憩を解いて会議を開きます。

お諮りします。本件については討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。

これから議案第 1 号を採決します。本件について原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第 1 号、町政功労賞被表彰者の同意については原案のとおり同意することに決定しました。

◎ 日程第 9 議案第 2 号

○議長（多田政拓君） 日程第9、議案第2号 安平町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔谷村水道担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 水道担当課長。

○水道担当課長（谷村英俊君） 議案第2号朗読

議案第2号

安平町水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について

安平町水道事業給水条例（平成28年安平町条例第30号）の一部を改正する条例を次のとおり制定する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

災害その他非常の場合において、給水装置の早期復旧を図るべく他の市町村長が指定した指定給水装置工事事業者による工事を特例的に認めることができるようにするため、この条例の制定について、提案するものである。

改正する条例本文の説明を省略し、一部改正の趣旨をご説明いたします。今回提案いたします条例の一部改正につきましては、これまで安平町の給水区域内における給水装置工事につきましては、町が指定する工事事業者が施工する制度としていましたが、令和6年1月に発生しました能登半島地震において、指定給水装置工事事業者自身の被災や工事需要の集中により、指定工事事業者の確保が困難な状況となり、その結果、宅内配管の復旧が遅れ、家庭での水が使用できない状況が長期化してしまった事態を踏まえ、災害その他非常の場合において、給水装置工事に係る指定工事事業者の確保が困難と判断される場合につきましては、安平町が指定した工事事業者に限らず他の市町村長が指定した給水装置工事事業者においても安平町の給水装置工事が特例的に認められるよう、所要の改正を行うものとなります。

それでは、これより新旧対照表によりご説明いたします。第6条工事の施工につきましては、第1項指定給水装置工事事業者の規定にただし書きを加え、災害時における給水装置工事事業者の特例に関して、改正を行うものと

なります。附則、この条例は公布の日から施行する。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。
これから議案第2号を採決します。本件について、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第2号は、原案のとおり可決されました。

◎ 日程第10 議案第3号

○議長（多田政拓君） 日程第10、議案第3号 安平町公共下水道条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔佐々木下水道担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 下水道担当課長。

○下水道担当課長（佐々木貴之君） 議案第3号朗読

議案第3号

安平町公共下水道条例の一部を改正する条例の制定について

安平町公共下水道条例（平成18年安平町条例第146号）の一部を改正する条例を次のとおり制定する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

災害その他非常の場合において、排水設備工事の早期復旧を図るべく他の市町村長が指定した工事店による工事を特例的に認めることができるようにするため、この条例の制定について、提案するものである。

改正する条例本文の説明を省略し、一部改正の趣旨をご説明いたします。今回提案いたします条例の一部改正につきましては、これまで安平町の公共下水道の供用開始区域内における排水工事につきまして町が指定する工事事業者が施工する制度としていましたが、令和6年1月に発生しました能登半島地震において、排水設備指定工事事業者自身の被災や工事需要の集中により指定工事事業者の確保が困難な状況となり、その結果、宅内配管の復旧が遅れ、家庭での水が使用できない状況が長期化した事態を踏まえ、災害その他非常の場合において排水設備工事に係る指定工事事業者の確保が困難と判断される場合につきましては、安平町が指定した工事事業者に限らず他の市町村長の指定を受けた排水設備工事事業者においても安平町の排水設備工事が特例的に認められるよう、所要の改正を行うものとなります。

それでは、これより新旧対照表によりご説明いたします。第13条排水設備指定工事店の指定につきましては、第1項指定を受けた者の規定にただし書きを加え、災害時等における排水設備工事事業者の特例に関して改正を行うものとなります。附則、この条例は公布の日から施行する。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言

はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) 討論なしと認めます。

これから議案第3号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) 異議なしと認めます。したがって議案第3号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第11 議案第4号

○議長(多田政拓君) 日程第11、議案第4号 早来第一汚水中継ポンプ所外電気機械設備更新工事にかかる請負契約の締結についてを議題とします。提案説明を求めます。

[佐々木下水道担当課長挙手]

○議長(多田政拓君) 下水道担当課長。

○下水道担当課長(佐々木貴之君) 議案第4号朗読

議案第4号

早来第1汚水中継ポンプ所外電気機械設備更新工事請負契約の締結について

早来第1汚染中継ポンプ所外電気機械設備更新工事を施工するため、次のとおり請負契約を締結したいので、議会の議決を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

(提案理由)

早来第1汚染中継ポンプ所外電気機械設備更新工事請負契約を締結するた

め、地方自治法第96条第1項第5号及び安平町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により提案するものである。

裏面をご覧ください。

記

- 1 契約の目的 早来第1汚染中継ポンプ所外電気機械設備更新工事
- 2 契約の方法 一般競争入札
- 3 契約の金額 49,500,000円
- 4 契約の相手方 苫小牧市新明町1丁目1番8号
株式会社 錦戸電機
代表取締役社長 大滝 力緒

入札の結果は参考資料のとおりで、2社による入札を実施し予定価格に対し97.66%で落札されております。

補足説明でございますが、裏面資料の入札告示（抜粋）資料をご覧ください。工期につきましては、令和7年9月29日から令和8年8月31日までの予定です。工事概要につきましては、設置から21年から24年経過した3か所の汚水中継ポンプ所の電気機械設備の更新工事となります。また、資料として工事か所を示した図面を配布させていただいております。図面の下の方に位置している早来地区の2箇所は、早来大町のあかね団地入口付近と早来北進の北進カナディアン公園付近の工事となります。図面の上の方に位置している追分地区の1箇所は、追分中央の郷土資料館付近の工事となります。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 入札された会社が2社なのはなぜか。3社以上無いのかということで、特殊な工事で業者がそれほどいないためとか何か理由があったのかどうか伺います。

〔木林企画財政担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 企画財政担当課長。

○企画財政担当課長（木林一雄君） 契約の関係ですので、私の方からご回答申し上げます。今回の工事ですが、設計金額が5000万円を超える電気工事で格付けはA等級となります。設計金額が1000万円以上の電気設備工事ですので選考委員会に諮り地方審査型条件付き一般競争入札とすることを決定しています。その上で入札に臨んだわけですが、入札参加業者は結果的に2社しかありませんでしたが、登録している他の業者については、設計図書のCDなど入札に参加すべき書類・資料等を借りに来ていたわけですが、結果的にその2社は入札に参加せず、ここに来た2社が入札に参加したということです。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ質疑なしと認め、これで質疑を終わります。次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。

これから議案第4号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第4号は原案のとおり可決されました。

○議長（多田政拓君） 日程第12、議案第5号 財産の取得について（学習用タブレット端末更新事業）を議題とします。提案説明を求めます。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 大変申し訳ありません、説明に入る前に1点ご訂正をお願いします。次ページの1. 取得しようとする財産の種類が学習用タブレット端末更新事業となっていますが、更新事業を削除し、学習用タブレット端末とご訂正をお願いします。大変申し訳ありませんでした。それでは提案説明をさせていただきます。

議案第5号朗読

議案第5号

財産の取得について

次の財産を取得したいので、議会の議決を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

財産の取得をするため、地方自治法第96条第1項第8号及び安平町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により提案するものである。

裏面をご覧ください。

記

- 1 取得しようとする財産の種類 学習用タブレット端末
- 2 契約の相手方 所在地 札幌市中央区南1条西3丁目2番地
会社名 大丸 株式会社

代表取締役 芹田 昭彦

- 3 所得の目的 令和元年度に導入した学習用端末を更新するため
- 4 取得の方法 随意契約
- 5 取得の価格 10,711,800円
- 6 取得の時期 令和8年3月
- 7 支払方法 全額一括払い

次ページをご覧ください。今回購入するタブレットほか付属品について参考資料として添付しておりますので、ご参照ください。

補足説明でございますが、今回のタブレットの更新は令和元年度に購入した早来学園分104台、追分小学校分52台、追分中学校分24台、計180台を更新するものです。本事業については国の補助金を活用して学習用端末を更新するものですが、この補助金においてはコストの削減、格差是正、管理の効率化を図るため都道府県の共同調達により端末を購入することが条件となっております。このことから、北海道において共同調達に係る一般競争入札を執行し、事業者選定により契約の相手方及び共同調達物品単価が決定したことから、安平町の購入分について1社限定による随意契約により取得するものです。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） ちょっとわからないところがあるのでお尋ねします。この随意契約に至るというのは北海道全土で購入するということの一括の部分で入札というか、契約者がもう決まっていてこの契約を結んだという理解でいいのか。たまたま前に使っていた物と同じ会社があったのかどうかって、そういうことは一切関係無く、道が指定した業者で購入してくださいということなのかの確認をお願いします。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 今年度において国の補助金の活用を希望している道内の市町村、これら希望する市町村に伴って北海道においてそれは市町村をまとめて競争入札を実行して、その競争入札の中で確定した業者とそれぞれの市町村が随意契約をしていく流れとなっています。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） ということは、単価的には全道一緒だよと。購入した方々は一緒だという理解でいいのですね。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） そのとおりです。北海道において競争入札した結果によってそれぞれの単価、同一価格となっています。

ただ、市町村によっては希望機種が違いますので、そこで機種の違いによっては出てくるかと思いますが基本的には同じ単価です。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） この交付金の活用で購入されるということなのですが、補助率どれぐらいで町負担はいくら出るのか、その辺お願いします。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 今回の入札による端末の価格が1台あたり6万3312円となっています。ただ、この補助金については補助単価が定額というか5万5000円の金額に対して、計算がすぐパッと出てこないのですが、全体の補助金額に対して今回補助対象経費が990万円となりまして、国の補助金が660万円という形になります。ですので3分の2です。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔箱崎議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 箱崎議員。

○8番（箱崎英輔君） タブレット端末について内容を伺いたいのですが。これ以前、令和元年で購入したものとどう違うのかというのと、あと同じ値段、同じ機種であれば同一値段ということはない、中身のソフトについても同じような中身になっているということですか。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 細かいところはあれですが、令和元年度に購入したものですのでiPad7が更新された最新の機種になるところで、若干の違いはあるかと思いますが基本的にはタブレットとなっています。

〔箱崎議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 箱崎議員。

○8番（箱崎英輔君） 令和元年度の部分はわかったのですが、これ例えば同じiPadを購入しているところは同じ仕様で同じソフトウェアしか入っていない。例えば安平町独自の学習用のソフトウェアを入れたいという場合は独自でやるという認識でよろしいか確認です。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 只今、議員のお話あったとおりと認識しています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) 討論なしと認めます。

これから議案第5号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) 異議なしと認めます。したがって議案第5号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第13 議案第6号

○議長(多田政拓君) 日程第13、議案第6号 財産の処分について(旧遠浅小学校土地、校舎、風除室・住宅及び付帯施設)を議題とします。提案説明を求めます。

[伊藤施設担当課長挙手]

○議長(多田政拓君) 施設担当課長。

○施設担当課長(伊藤富美雄君) 議案第6号朗読

議案第6号

財産の処分について

次の財産の処分をしたいので、議会の議決を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

(提案理由)

財産の処分をするため、地方自治法第96条第1項第8号及び安平町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により提案するものである。

裏面をご覧ください。

記

1 処分しようとする財産の種類 土地、建物及び付帯施設

2 処分しようとする財産の所在、地目、面積、名称及び構造

【土地】

所 在	地 目	面 積
安平町遠浅564番 3	学校用地	1,653m ²
安平町遠浅578番 3	学校用地	5,493m ²
安平町遠浅580番 1	学校用地	10,895m ²
安平町遠浅590番 1	宅 地	3,679.35m ²
合 計		21,720.35m ²

【建物】

所 在	名 称	構 造	面 積
安平町遠浅580番 1	旧遠浅小学校（校舎）	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,507m ²
	旧遠浅小学校（風除室）	鉄骨造	20m ²
安平町遠浅590番 1	住宅（HK34）	コンクリートブロック造 1 階建	62m ²
	住宅（HK2）	木造 1 階建	93m ²
	住宅（HK11）	木造 1 階建	88m ²
	住宅（HK26）	コンクリートブロック造 2 階建	77m ²

【付帯施設】

所 在	名 称
安平町遠浅564番 3	倉庫
安平町遠浅578番 3	物置
	物置
安平町遠浅580番 1	プロパン庫
	物置（コンテナ型）

	物置
	物置・駐輪場
	駐輪場
	開校100周年記念碑
	閉校記念碑
	開校80周年記念碑
	受電盤

- 3 処 分 先 勇払郡安平町早来源武275番地
有限会社 ノーザンレーシング
代表取締役 吉田 俊介
- 4 処 分 価 格 20,400,000円
- 5 処 分 の 時 期 令和7年度中
- 6 支 払 い 方 法 全額一括払い

補足説明をさせていただきます。旧遠浅小学校は令和5年3月に閉校となり、閉校後5事業者より問合せがありました。令和5年10月下旬頃に旧遠浅小学校の利活用を希望される事業者より、今後の事業展開において旧遠浅小学校を活用した事業方針に関係することから、なるべく早い時期の譲渡をお願いしたい旨問い合わせがあったことから、町で作成した安平町閉校施設等活用方針の3、閉校施設等利活用における優先順位等に基づき民間事業者等による活用を前提とした利活用とし、遠浅地区住民説明会を開催し令和5年12月18日から令和6年1月19日までの期間により公募させていただきました。

公募期間による応募事業者は1社となりましたが、プロポーザル方式で決定することとしていたため、応募事業者よりプレゼンテーションを実施し、今後の利活用内容や地域及び町への貢献等の説明を受け譲渡先と決定させていただいておりました。その後、都市計画等に係る諸問題の整理に時間を要しましたが、この度の譲渡となったところでございます。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

- 議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） 11番梅森です。確認なのですが、付帯施設の処分について。これ記念碑3か所ありますよね。これについてはどうお考えですか。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 記念碑についてはなるべく残していただくようお願いしているのですが、事業者側の構想の中に、もし合わない時には移動をしていただいてもいいというお話をしています。

ただ、今まではっきりと支障になるということは聞いていませんので、今後何かありましたら、やはり記念碑になりますので協議して決定していきたいと考えています。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） 確認ですが、非常に大事な記念碑、地元の方にとっては大事なものかなと思うのですよ。それはお任せするのではなくて、きちんと維持管理をするとか、きちんとした方向性を持って臨まないと。新たな所有者の方にお任せしますという位置づけでは私ダメだと思うのですよね。地元の方たちの理解も得ていますか。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 記念碑についても議員がおっしゃいます形もありますので、地元の方の説明会の際にもお話はさせていただいています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。

これから議案第6号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第6号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第14 議案第7号

○議長（多田政拓君） 日程第14、議案第7号 財産の無償貸付について（旧遠浅小学校屋内運動場）を議題とします。提案説明を求めます。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 議案第7号朗読

議案第7号

財産の無償貸付について

次の財産を無償貸付したいので、議会の議決を求める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

(提案理由)

財産の無償貸付をするため、地方自治法第237条第2項の規定に基づく同法第96条第1項第6号の規定により提案するものである。

裏面をご覧ください。

記

- 1 無償貸付しようとする財産の種類 建物
- 2 無償貸付しようとする財産の所在、名称及び面積

所 在	名 称	面 積
安平町遠浅564番3	屋内運動場	870㎡
合 計		870㎡

- 3 無償貸付の目的 職員の福利厚生、研修等及び地域農業者交流研修施設として使用のため
- 4 無償貸付の相手方 勇払郡安平町早来源武275番地
有限会社 ノーザンレーシング
代表取締役 吉田 俊介
- 5 無 償 貸 付 期 間 令和7年9月22日から令和12年3月31日まで

補足説明をさせていただきます。今回の無償貸付は、本来であれば議案第6号の中に盛込み処分するよう整理を進めてまいりましたが、都市計画法上の問題や諸問題の整理にさらに時間を要することとなったため、今回の無償貸付により町所有のまま一度貸付先に貸出しながら、今後の譲渡に向け引続き事務作業を進めることとしたものであります。

なお、今回の無償貸付につきましては、建物の維持管理等については全て貸付先の負担として管理していただきます。

以上で説明を終わります。ご審議の上ご決定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

- 議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

- 議長（多田政拓君） 三浦議員。

- 7番（三浦恵美子君） 無償貸付期間の令和12年3月31日までに一定の事務処

理というか手続きができそうな目途になっているかどうか。

そのためこの令和12年3月31日までとしたのか、その根拠をお願いします。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 議員のおっしゃるとおり、この期間内に事務手続きを済ませられるような形で進めていきたいと考えています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 補足説明で、もう一つ補足させていただきたいと思います。遠浅小学校の屋内運動場については現在避難所として指定されています。避難所についても引き続き指定させていただくような形で貸付先との協議を済んでいますことを補足させていただきます。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 避難所としても使えるということで伺ったのですが、例えば5年間で片が付いて、譲渡が済んだ後はどのようになっていくか。その辺の協議も進められて譲渡に至るのかどうかをお願いします。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 避難所として譲渡後もということでよろしいですね。そちらについても今回の協議の中で引き続き譲渡後も避難所として使用させていただきたいということで協議の方は進んでいます。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） 避難所として使用するとなると、暖房の設備とか今い

ろいろ問題になっていますエアコンだとか、そういう設備については将来的にはどう考えているのか。しなくちゃならないのか、それともしないままでいずれは買い取っていただきたいという希望を持っているのか伺います。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） 現在の屋内運動場についても暖房施設はありますが、冷房施設は設置されていません。

今後についても今回12年の3月31日までは町の所有となりますが、特にそういうものの整備を、今後もエアコンの設置などは特に町としては考えていません。

それと譲渡後の話になるかと思いますが、その辺については現在相手方とのお話はしてはいません。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） 進んで良かったのかなという気はするのですが、この土地自体は学校という形で都市計の中に存続していたと。これが売買契約をするに至るだけの形、要は種目変更の中で整理されていくと思うのですが、これはどうしてこれを変えることができて、売却することができたのか。それを教えていただければ。

〔伊藤施設担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 施設担当課長。

○施設担当課長（伊藤富美雄君） この地域は議員のおっしゃいますように都市計画上では市街化調整区域ということで、普通の方は建物を建てられるところではありませんが、先ほどの6号議案も含めてですが譲渡先が農業者ということで、6号議案になってしまいますが今回の譲渡した校舎、元教員住宅については今後譲渡先の職員住宅にして利用していくということなので、譲渡先は農業者になっていますので、その辺で都市計画上は問題なくクリアされています。

ただ、この7号議案で今回無償貸付としてさせていただいている部分のこの屋内運動場については、農業者としてだけだとハードルが高いということで、もう少し農業者としてとあと地域、先ほど使用目的でも説明させていた

だいたのですが、地域の農業者の交流施設などを含める形であれば都市計画上の問題もクリアしていける可能性があることで、その辺がまだ北海道とのやり取りもまだきちんと決まっていないものですから、もう少し時間がかかるということで今回この屋内運動場については一時無償での貸し付けをさせていただいて、その辺の整理をきちんとした後に今後は譲渡をしていきたいという考えです。なので都市計画上の問題は、譲渡の方は問題ありません。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。

これから議案第7号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第7号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第15 議案第8号

○議長（多田政拓君） 日程第15、議案第8号 令和7年度安平町一般会計補正予算（第3号）についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔田中副町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 副町長。

○副町長（田中一省君） 議案第8号朗読

議案第 8 号

令和 7 年度安平町一般会計補正予算（第 3 号）について

令和 7 年度安平町一般会計補正予算（第 3 号）を別紙のとおり提出する。

令和 7 年 9 月 17 日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

地方交付税の決定等により、令和 7 年度安平町一般会計補正予算について、地方自治法第 218 条第 1 項の規定により提案するものである。

別冊、補正予算書をご覧ください。

議案第 8 号

令和 7 年度安平町一般会計補正予算（第 3 号）

令和 7 年度安平町の一般会計補正予算（第 3 号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

- 第 1 条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 1 億 2360 万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 87 億 8977 万 7000 円とする。
- 2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表歳入歳出予算補正」による。

令和 7 年 9 月 17 日提出

安平町長 及 川 秀一郎

令和 7 年度安平町一般会計補正予算（第 3 号）について提案説明いたします。今補正の主なものとして、歳入では町民税の課税額決定による 7078 万 1000 円の減額、普通交付税の交付額決定による 8763 万 8000 円の増額などで、歳出では認定こども園等運営経費で、公定価格改定等の影響による負担金 2748 万 1000 円の増額などです。

それでは歳出から説明いたします。12 ページをお開き下さい。

2款総務費1項1目一般管理費は、これまでの議会質疑を踏まえた当初予算の事業内容変更に伴う予算の組み替えで、2目電子計算費（1）防災行政情報告知ネットワーク構築事業は、電柱所有者からの移設要請によるエリア放送用光ケーブル移設工事費の増額です。（2）総合行政ネットワークシステム運用事業12節は、コンビニ交付システムライセンス更新費用の増。13ページ18節は自治体中間サーバー・プラットフォームシステム移行業務などの対応による増額です。（3）電算機器等管理経費11節は公衆無線用光回線通信料で、当初予算に不足が生じるため増額するもの。14節は電柱所有者からの移設要請による町内ネットワーク光ケーブル移設5か所の工事費の増額です。7目財産管理費（1）公用車管理経費12節は町長公用車運転管理業務で、運転手の宿泊料、今後見込室蘭・豊浦・網走・札幌等に不足が見込まれることから増額。13節は公用車のNHK受信料の執行残の整理です。（2）町有施設管理経費12節は、当初予算に不足が生じるため増額するもの。14節は工事資材及び人件費の高騰に伴う増額です。10目企画費（1）地域公共交通対策事業11節は公共ライドシェア事業用車両に係る任意保険料で、今後の予算に不足が見込まれることから増額するもので、17節は公共ライドシェア事業用に購入する車両仕様を安平町におけるゼロカーボンシティの実現に向けた取組みの観点や令和7年3月に策定した安平町地球温暖化対策実行計画区域施策編等を踏まえ、ガソリン車からハイブリッド車に変更することに伴う増額の計上。14ページ18節、交通空白解消対策事業補助金は、公共ライドシェア事業の実証運行実施に伴う補助金の増額。鉄道等利用促進活動費助成金は、当初予算の見込みが4件を超えるため増額するものです。（2）その他企画事務経費は過年度償還金で、令和6年度重点支援地方創生臨時交付金の実績報告に伴うもので、（3）デマンド交通運行事業はデマンドバスの乗降用ステップの修繕を行うものです。11目まちづくり推進費は旧早来中学校仮設校舎跡地の宅地造成に伴い戸建用5区画の取り付け道路を歩道の整備等を行うものです。5項1目統計調査総務費1節は、町史作成の基礎資料となり得る安平町に関する新聞記事等収集のほか現在進めている安平町史の作成に関する資料・年表等の作成や、保管されている歴史的資料の整理業務追加により報酬の増額を行うもので、3節はそれに伴う各種手当の増額です。15ページ、2目各種統計調査費は、統計調査市町村交付金の金額決定により歳出補正するもので、2節国勢調査10節及び11節は農林業センサスによるものです。

3款民生費1項5目ぬくもりセンター施設費は、施設設備の老朽化に伴い修繕等が増加しており、今後の予算に不足が見込まれることから増額するものです。16ページ、9目高齢者福祉費は老人福祉法に基づく養護老人ホームでの保護措置開始に伴う措置費の計上です。10目高齢者福祉施設費（1）高齢者施設管理運営経費は、ぽっぽ苑及びはーと苑の設備の老朽化に伴い修繕等が増加しており、今後も入居者退去時の居室修繕に伴う町負担分も予想され、予算に不足が見込まれることから増額するもので、（2）認知症グルー

プホーム改修事業10節は、グループホームさかえの網戸20枚中13枚の破損、野鳥による損傷及び経年劣化、設置17年経過による網戸修繕を行うもので、14節は執行残の整理です。12目しょうがい者福祉費12節は、法改正に伴うシステム改修費の計上で、18節は医療費助成のオンライン資格確認業務に伴うシステム改修費の負担金の計上。22節は過年度償還金で、実績報告に伴う償還金で、それぞれ説明欄に記載のとおりです。17ページ、2項4目認定こども園等運営経費10節は、はやきた子ども園の電気温水器2台の修繕料の増額で、18節は公定価格改定等による町負担分の増額です。22節は過年度償還金で、令和6年度地域子ども・子育て支援事業費国庫交付金。5目児童手当費は令和6年度児童手当国庫負担金で、どちらも実績報告に伴うものです。

18ページにまたがる4款衛生費1項1目地域保健費は、対象事業費の増額による増。2目予防費は当初予算の受診者見込みを超えているため増額するものです。5目環境衛生費18節は、令和7年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、重点対策加速化事業の交付決定に伴い太陽光発電設備等の設置事業者に対し間接補助をするための補助金の計上で、歳入歳出同額となるもので、23節は重点対策加速化事業の推進を図るため、地域エネルギー会社である株式会社あびらエナジーに対し1株出資するものです。

6款農林水産業費1項2目農業総務費は、農業者年金業務委託金の増額に伴う財源振替です。19ページ、4目農業振興費は農作業機械導入事業で、計画の承認及び割当内示があったことから計上するもの。9目ダム管理費は、瑞穂ダム管理システム通信回線整備事業で、当初予算では修繕料で計上していましたが修繕工事から委託業務に変更を行い実施するもので、5項2目林業振興費は町道街路樹維持管理業務を実施するものです。

20ページにまたがる7款商工費1項1目商工業振興費は、チャレンジショップ前の駐車場の補修を行うものです。

8款土木費2項2目道路維持費（1）道路施設等維持管理経費、12節維持補修業務委託料は、当初の見込みより町道の補修等が多く予算が不足するため増額するもの。町有車運転業務委託料は町道の維持作業増加のため増額するもので、15節の補修用資材及び切込砂利は当初の見込みより町道の補修等が多く、予算が不足するため増額するものです。（2）町道補修事業は、あけぼの団地1号線及び若草団地幹線1号線の歩道舗装のひび割れや陥没等が著しいことから修繕を行うものです。21ページ、3目道路新設改良費16節は遠浅酪農2号線改良舗装工事及び迫分市街4号線歩道新設工事に伴う用地購入費で、土地買収単価算定に基づき増額するもの。21節は遠浅酪農2号線改良舗装工事の支障物件移転補償額算定に基づき減額するものです。3項1目河川維持費は当初の見込みより河川の補修等が多く予算が不足するため増額するもので、4項2目公園費（1）ときわ公園管理経費は、野外ステージの高圧受電に伴う安全対策が確保されていないことについて電気保安協会より指摘を受けたことから改修するもので、22ページ、（2）町内公園管理経費

8節は令和7年度全道公園緑地担当者会議出席に伴う日当及び宿泊費の計上、18節は同会議負担金の計上です。5項1目住宅管理費は、追分中央公営住宅ポンプ室給水加圧ポンプ不調による取替工事を行うもので、2目住宅建設費は入札執行残の整理です。

23ページにまたがる9款消防費1項2目災害対策費（1）防災訓練事業経費は防災訓練事業に係る経費内訳変更による予算の組み替え、（2）防災体制整備事業は防災関連消耗品の一部を備品購入費に振替し、簡易トイレ2台を購入するものです。

10款教育費5項3目公民館費10節は、当初の見込みより公民館の補修等が多く予算が不足するため増額するもの。24ページ、17節は町民センターの管理体制強化のためパトライトを購入するものです。

12款給与費は、令和7年3月末で退職した職員の退職手当に係る負担金で追加負担金が確定したため増額するものです。

13款予備費は、7月から8月にかけてぬくもりセンターの修繕等により予備費の充当額が多かったことから、今後に備え予備費を確保するものです。

引き続き歳入の説明をさせていただきますので5ページをお開きください。

1款町税1項1目個人町民税2項1目固定資産税は、いずれも課税額決定によるものです。

6ページ、11款地方特例交付金は、交付額決定により減額するものです。

12款地方交付税は交付額決定によるもので、前年度決算と比較しますとマイナス1億8700万7000円、7.6%の減となっています。主な要因としましては、基準財政需要額では控除となる臨時財政対策債の減額などにより5652万2000円の減額、基準財政収入額でも町民税の増額などにより1億2828万円の増額となったことによるものです。

7ページ、16款国庫支出金1項1目民生費国庫負担金は、公定価格の改定等による国の負担分の増。2項1目総務費国庫補助金は新たに推進メニュー分の追加による増、2目民生費国庫補助金は、しょうがい者福祉費のシステム改修費に対する補助金で、3目衛生費国庫補助金は令和7年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、重点対策加速化事業の交付決定に伴い、太陽光発電設備等設置事業補助金に充当するものです。8ページ、3項3目農林水産業費委託金は、決算見込みにより減額するものです。

17款道支出金1項1目民生費道補助金は、国庫と同様に公定価格の改定等による道の負担分の増。9ページ、2項4目農林水産業費道補助金は、農業振興費の農地利用効率化等支援交付金に対し10分の10の補助となります。

18款財産収入1項1目財産貸付収入は町民センター駐車場分の計上で、2目利子及び配当金は配当額の確定により増額するもの、10ページ、2項1目不動産売却収入は旧遠浅小学校敷地及び校舎の有償譲渡に伴う収入額の計上です。

20款繰入金1項1目財政調整基金繰入金は今補正の財源調整で、3目まち

づくり基金繰入金は重点支援地方交付金の財源振替などによるものです。

11ページ、22款諸収入4項2目過年度収入は、いずれも負担金等の確定によるもの、6目雑入いきいきふるさと推進事業助成金は、採択による計上で記載のとおりです。

以上、歳入歳出の総額に歳入歳出それぞれ1億2360万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ87億8977万7000円とするものでございます。ご審議の上、ご決定下さいますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（多田政拓君） ご苦労様です。説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑は歳出からページごとに行います。12ページをお開きください。まず12ページについて質疑はありませんか。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） 12ページ、2款1目一般管理経費の中で、委託料の庁舎等レイアウト設計業務委託料と文書管理適正化支援業務委託料って、同額で名称の付け替えという形になっているのですが、どうして変えないといけないのかなと。最初からレイアウトする時にいろんな協議をしてきてこうですああですって説明して、項目を変えないといけないという理由が私には理解ができない。当初予算の中で、このようなレイアウトという話で進めてきたのに、急にここにきて項目を変えるという説明をお願いします。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） こちらの業務委託料にかかる補正予算の説明に記載された名称の振替については、理由としては2点あります。

1点目としては今回補正予算で減額しようとしている庁舎等のレイアウト設計業務委託料については、本年2月14日に開催しました新規事業にかかる全員協議会、あと3月には高山議員からの一般質問、当初予算審議でもご説明申し上げましたとおり、この内容は当町の役場組織における紙文書の軽減を図ることを目的としたファイリングシステムの導入にかかるコンサル委託に関するものでして、平成25年以降メンテナンスをしていない現在の文書管理・文書分類の見直しとともに、迅速な文書検索と紙文書の軽減を図るために他の自治体の例を参考として廃棄文書と保存文書をより細分化するファイリング方式を導入するといった内容のコンサルティング、そして2課における施行実施について予算計上させていただいたものです。こちらについては昨年度実施の庁舎執務室再設計業務委託の委託業者からの最終的の報告の内

容もありまして、これに基づきまして4月30日に全員協議会における説明を行わせていただいた中で議員の皆様からも全体事業費に対して抑制すべきではないかのご意見もありました。庁舎のワンストップ化の事業については、補助金が発生したらすぐ手を挙げられるように準備をしているというご説明もしまして、最終的にその時のゴールはいつかのご質疑がありましたので、最終的な町としての目標としては次の第3次総合計画の期間内を目標にワンストップ化・レイアウトの変更といったものは目標にしていくんだというお話をさせていただきました。ファイリングシステムというのは基本的に1文書を縦に病院でいうカルテのような形で保存していくのですが、それにかかる書棚を今現在、当町で有していないこともあり、書棚を有効活用する部分で2課によるファイリング方式の試行をまず取り止めをして、まずは平成25年度以降見直しを行っていない文書の分類を全課で見直しすることに注力をするべきだという判断をしましたので、業務の仕様を変更することとしたものです。

2つ目として、記載欄の名称の変更理由については今申し上げたとおり2月の全員協議会、当初予算の審議でご説明・ご答弁させていただいた内容から、その仕様について内容を変更することに加え、当初予算における計上の名称に対して3月議会の一般質問でも高山議員からわかりづらいというご指摘がありましたことから、この事業は庁舎のワンストップ化とは別に役場組織の文書管理を見直しするものであることを明確にするため業務の名称を振替させていただいたものです。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） 逆に言うと私が一般質問をした結果、こういう流れが変わってしまったので。非常に良いのか悪いのかよくわからないのですが。逆に言うと庁舎等のレイアウト設計はあくまでも国の補助金が来ない限りはこの名称ではいけないという形の認識でいいのか。次やろうとしていることはファイリングしっかりやらないと、全部やらないとならないということの理由付けですから。結果的にお金はこれ以上、この数字を変えないで項目をとにかく全般的に変えるという、趣旨を変えていくとの理解でよろしいですか。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 庁舎のサービスのワンストップ化を補助金が無いとやらないのかという決定までは、だからやらないということではなくて今後も検討は絶対に必要だと。昨日の小笠原議員のご説明にもあったように職

員が減っていった時にサービスをいかに維持するかが大切な議論になりますので、そういったワンストップ化は常に課題として持っているのですが、この名称の変更は高山議員ご指摘いただいたとおり、レイアウトの変更と文書管理って何の関係あるんだってわかりにくさがありました。これは当初予算を計上した際に、もともと設定されていた項目を使って関連する事業と一緒にはめていこうということで考えたのですが、ゆくゆくご指摘を踏まえればワンストップと文書管理って何の関係があるんだというところもあり、今回若干2課に分けるファイリングシステムの試行導入を見送って文書の分類をしっかりとやりましょうというふうに仕様を変えさせていただいたので。これは自治法上この名称を振り返ることが議決の事件かどうかということと必要なかったのかもしれないですが、当初説明を議会にさせていただいた内容から変えてやらせていただくこともあり、議決をちゃんと経て仕様を変更したいということもあって名称を変えさせていただいた内容になります。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） 同じところで、ちょっと理解できなかったのも再度伺いますが。ということは、レイアウト設計業務はしないという理解でよろしいですか。庁舎内のレイアウト設計変更はしないという理解でよろしいですか。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 重複したご答弁になろうかと思いますが、庁舎内のレイアウトをどうするかというのは先ほどから申し上げているとおり、ワンストップ化を図っていくのは我々にとって大きな課題です。ただ、昨年度行ったレイアウト設計業務委託料は、もう成果品が終わっているのです。それは4月30日皆さんにご説明したとおりのレイアウトに変更したいところは、それで一度完結しているというか実績の方向が出ているわけですから、それで終わって、その関連というか項目を使って文書管理の適正化業務を進めていこうと思ったのですが、そうではなくて、ちゃんと事業名を振替して行う方が適切だと考えて今回補正で出しています。

米川議員がおっしゃっているレイアウトの変更事業というのはもう検討しないということかということであれば、事業予算が付いていないのでここは計上はないですが、レイアウトの変更は今後も検討してまいります。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ13、14ページで質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 一点ずつ聞きたいのですが。まず13ページ、7目財産管理費の公用車管理経費の委託料。公用車関連業務委託料の増額要因の詳細をお願いします。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 町長公用車の運転手が町長と一緒に遠出をしてどうしても日帰りで帰って来られない場合に、一緒に宿泊をしなければならないのですが、こちら年5回で予算計上していましたが、今年度公民館協会から安平町長に対して10月に網走市で開催される全道大会への講師依頼等がありまして、当初の5回の宿泊回数を超過することになりましたので増額補正で運転手の宿泊分、実費分3回分を補正計上したものです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 3回分とは。1回分は網走でわかるのですが、あとの2回分はどこかというのと。日帰りでどうしてもそこもできないのか、この2点をお願いします。

〔岡総務担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総務担当課長。

○総務担当課長（岡康弘君） 今回追加で補正しておりますのは既に今年度3回町長の同行で運転手が出張してしまっていて、残り1回、二泊三日になろうかと思いますが網走市での運転手の宿泊が必要になりますので、プラス1回予備分も含めて補正で計上したところです。

それで日帰りについては、今回は網走とか朝帰って来なければならないと

かっていう事情を考えると運転手の疲労も含めれば日帰りで帰ってきて。

出張そのものを日帰りでということになりますか。

運転手がということによろしいですか。というのは安全運転上の問題もありまして、そういった疲労の関係もあるので町長が遠出で宿泊する場合には一緒に泊まる、朝一緒に帰ってくるという例が多いです。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） さっき補正予算の説明の中で札幌市などって名称が入ったので誤解されたかもしれませんが、私は札幌市に行って日帰りが多いのですが泊まる場合も、夜もあるので泊まるのですが、運転手さんは札幌の場合は帰していますので、日帰りで行っていますので、泊まらなければならない、今総務課長答弁した遠出の場合だけということでご理解ください。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） では違う場所でもう一つ聞きたいのですが。同じページの10目企画費の地域公共交通対策事業の備品購入の部分。ハイブリッド車に変更のためとご説明いただいたのですが、具体的にどのような車輛購入を考えているのか。その点伺います。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 車輛の選定については現在6、7人が乗れるボックスタイプのものを想定しています。また、車輛についてはハイブリッド車の選定を予定しています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） この車輛の購入に関しては競争入札などを行って、より条件に合いやすい車輛を買う方式で行うのかどうかお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） この予算の算出根拠を作るにあたり参考見積りの手順を踏むのですが、その中で町の方に入札の届出をかけている6社に対して事前にご案内かけたのですが、既に先ほど言った6、7人タイプの車輛は生産中止であったり生産が、内藤議員の一般質問の際にもお話したのですが、年内実証実験をやっていききたいというスケジュールを想定してお話した時に間に合わないところがほとんどです。ただ1社のみがこちらが予定している車輛と納入期限を達成できそうな見込みとなっていて、入札の方式としては1社の随意契約を想定した段取りを組んでいるところです。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） では選定しなかったけど、やむを得ずという形なのでしょうか。購入に至って今後、交付金使ってされるものだと思うのですが1台購入して賄えるものか。実証実験がうまくいったら今後もこのような形でまた車輛を購入して進めていかれるのか、その方向性についてお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） まず車輛については一般質問の際にもお答えしたとおり、町として車輛を用意しまして公共ライドシェア事業に充てていきたい構え方です。

また、実証実験の結果によっては、その方向性はどちらに向いていくかは実施した後の検証次第によるところがあるのですが、仮にこれが最悪の事態を想定してライドシェアに振り向けられるニーズも無かった、難しいとなった場合には町の公用車として使うことを想定した二段構えになっていますので。そうした観点からも町のゼロカーボン宣言の取り組みの方向性や地球温暖化対策計画等を踏まえてハイブリッド車を選定している背景となっています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 抜けがありました。補助金ですが、車輛についても補助金が対象経費になっています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 別項目で。14ページの18節負担金補助及び交付金の交通空白解消対策事業補助金の62万4000円の部分に関して、内訳を詳しくお願いします。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） こちらの内訳についてですが、まず補助金については間接補助方式となっていますので、地域公共交通協議会が今実施主体として事業を展開していく予定となっています。

そこの今回の内訳について、1つはライドシェアの車輛を運行管理していただくことが必要になりますので、そちらの運行管理業務委託経費として合計7万9200円。

さらにその車輛を配車のやり取りを管理する業務委託も発生しますので、そちらの委託業務経費として34万1550円。

さらにライドシェアのドライバーさんになるのですが、こちら公共交通機関と車を置く場所に、予約が入った際にはドライバーさんには一回車が置いてある場所に来ていただいて、そこで車輛に乗り換えて公共サービスの車輛を回すことになりますので、そこにかかる交通費がかかってきます。職員で言えば通勤手当になるのですが、そちらの交通費として7万4000円。

さらにドライバーさんが講習を受けることになりますので、講習にかかる経費11万3400円。

もう一つは公共ライドシェアという法令に基づく事業を実施することになりまして、この手続きを運輸局に進めるのですが、その際に登録免許税がかかりますので、こちらについて1万5000円を計上している内訳で合計62万4000円となっています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ15、16ページで質疑はありませんか。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） 15ページで、ぬくもりセンターの修繕料の関係なのですが、毎年老朽化に伴って多くの予算を使って適正に維持してくれていると思うのですが、今回は循環ポンプの水漏れ等の修繕という話でした。これは発見された経緯というのはどうなっているのか。かねてから浴場の天井が落ちたりとか考えられないことがあって、その時は定期点検をきちんとやっていたのかどうか非常にクローズアップされましたが、今回の水漏れの点検、修繕料が出てきた経緯について説明してください。

〔村上総合支所長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総合支所長。

○総合支所長（村上純一君） ぬくもりセンターの循環ポンプとか配管含め設備関係は保守点検を行っているのですが、今回循環ポンプ、水漏れが発生したというのは従業員が日々点検している中で水がポタポタ落ちてきていると。そんな状況がありまして、調べたところ不具合が起きているということで交換をしたものです。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） ちょっと心許ない答弁だと思いますよ。大きな事故を経験して定期点検の重要さというものを私たちも含めて認識したはずですが。当然こういうことが起きないために、例えばどういうスパンで年に1回なのか月に1回なのか。今の課長の説明を受けますと、従業員がたまたま気付いて早期に対応したんだと言えば耳ざわりはいいんだけど、そうではなくてきちんとした計画を立てて定期点検をやっていくことによってこういうことが防げるのかなって、防止できるのかなって理解をしていましたけども。今の答弁聞いているとなんか心許ないですね。従業員がポタポタ気付いたので直しますって、それは直すのは大事なことでけども、そうではなくてきちんと、先ほど最初に言いましたが相当老朽化しているのは私も理解しているつもりです。屋上の大規模補修やったりとか我々市民の目から見ても大規模な改修工事が必要なんだと理解をしていますけれども。先ほども言いましたが浴場の天井が落ちたり、大きなことを踏まえてきちんと定期点検は決まったもので、できれば短いスパンできちんと点検してくれているのかなって理解していたけれども。今の答弁聞いていると、どうもそうならないという不安な気持ちになってしまいましたけれども、その点どうですか。

〔村上総合支所長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総合支所長。

○総合支所長（村上純一君） 委託業者の方で定期的に点検も入っていますし、従業員の方でも日々機器関係を点検している中で、不具合が生じた時にはすぐに業者に連絡をして、確認をして、交換が必要なものは交換していくと。その場で対応できる場合もありますし、今回の場合はすぐに交換しないと、この後の営業に支障があるということで交換になったものです。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ17、18ページで質疑はありませんか。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） 17ページのこども園等の運営経費の中の需用費ですが、これ取り換えって言いましたか。修繕料となっていますけど、修繕で済むのでしょうか。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） はやきた子ども園の電気温水器の2台の修繕のため65万5000円を計上させていただいていますが、取り換え修繕が基本ということで計上させていただいています。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○7番（三浦恵美子君） その下の負担金、補助金及び交付金ですが、交付金なら当初予算で察しがつきますよね。これ子どものための教育とか保育と書かれていますけど、細かく具体的に交付する事業についての区分け、事業というか何というか民生費とか児童福祉費とか細かく分けられることができた上でこの総額の2748万になっていますか。その具体的な金額を、この内訳をお知らせください。

〔佐々木学校教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 学校教育担当次長。

○学校教育担当次長（佐々木英生君） 子どものための教育保育給付費負担金については、はやきた子ども園、おいわけ子ども園の運営にかかる負担金を増額計上させていただいたものです。ここについては国の公定価格についてはさまざまな基準がありますが、その公定価格が改定となったために当初こちらから申請していたというか、申請時点の公定価格から国の方が値上げというか改定しましたので、その分について2つのこども園にかかる町費負担分を増額する計上をさせていただいたものです。このこども園の運営経費については、国2分の1、道4分の1、町4分の1という負担割合になっています。このルール分について増額するものです。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） 18ページの環境衛生費の23投資及び出資金のところの株式会社あびらエナジー出資金。これは先に説明会を開いて説明していただいたのですが。それでもまだ私としては知りたいことがあるので聞きたいと思いますが。この会社の実態というか社長及び役員などの名前を教えてくださいませんか。これはこの役員の一人として町長も名前が連ねることですが、4名いるのでそういう会社の形態を知りたいと思います。

それと太陽光のパネルはどこに設置するのかとか、送電線は使用できるのかとか、町長が株主になることで意見を反映できる体制が整えられるとかって言っていますけど、この意見というのはどういう意見を想定して株主になろうとしているのか。具体的なことを伺いたいのですが。

○議長（多田政拓君） ここで休憩に入ります。15時15分まで休憩します。

休憩 午後 2時58分

再開 午後 3時15分

○議長（多田政拓君） 休憩を解いて会議を開きます。

引き続き議案第8号の審議を行います。休憩前の米川議員の質問に対する答弁をお願いします。

〔佐々木生活環境担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 生活環境担当課長。

○生活環境担当課長（佐々木智紀君） あびらエナジーの役員構成ですが、こちら相手方もあることですので、私の方から確認させていただきまして後ほど議会にご連絡する形を取らせていただきたいと思いますと思いますが、よろしいですか。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） 他にも質問していますけど。

○議長（多田政拓君） 質問し直してください。

○2番（米川恵美子君） 質問し直すのですか。

○議長（多田政拓君） お願いします。

○2番（米川恵美子君） 株主になることで、意見を言いやすくなることはどういう意見を想定してそのように考えたのかということと、それからブラックアウトみたいなことがあった時に町としてその施設から供給される電気がありがたいことになるんだろうとは思っているのですが、その場合の送電線についてはどうなのか。使用できるのかどうかということと、太陽光パネルはどこに作られるのか。その3点を伺います。

〔佐々木生活環境担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 生活環境担当課長。

○生活環境担当課長（佐々木智紀君） まず出資の方ですが、今回1株出資ということで予算計上させていただいています。1株の権利として株主総会の決議に加わることができる権利、配当金を貰うことができる権利、会社が解散した時に残余財産を貰うことができる権利、株主総会で議案を提案できる権利、計算書類等を見ることができる権利、定款を見ることができる権利、株主名簿を見ることができる権利、株主代表訴訟を提起する権利、取締役の違法行為を差し止め請求する権利、会社が新規に株式を発行するのを差し止め請求する権利、株主総会で行われた決議の取り消しの訴えを提起する権利。その他、今回1株は1%にあたりますので1%以上の権利として、株主総会の議題を提案できる権利、株主総会で提出する予定の議案を株主に事前に通知するよう要求する権利、株主総会の招集手続きなどについて検査役を選任するよう求める権利などがあります。さらに今回、安平町長が取締役として

参加することによりまして同社の事業進捗状況を経営面から把握し、必要に応じて経営全般に対して意見を反映できる体制を整えることが可能となるものです。

次に補助金のご質問かと思うのですが、今回令和7年度にパネルを設置する施設については安平公民館、遠浅公民館、追分中学校の3施設となっています。遠浅公民館と追分中学校については、それぞれ施設の屋上に設置をしますので特に既存の送電線は使用はしません。安平公民館については、こちら屋根ではなく敷地内に垂直型のパネルを設置するのですが、こちらも既存の送電線は使用しませんので特に送電線に対しての問題は発生してこないということです。

○議長（多田政拓君） よろしいですか。

（理事者側協議）

○生活環境担当課長（佐々木智紀君） 令和7年度については今ご説明したとおりですが、今後予定しています令和8年度以降の太陽光パネルの設置の際には既存の送電線を利用することを予定しています。こちらについては所有者である送電線事業者と協議を行った上で既存の送電線を使用する形になると思います。

〔米川議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 米川議員。

○2番（米川恵美子君） それでは特別広範囲の土地に太陽光パネルが並べられて、そこから電気が蓄電を通過して各家庭に配分されるという仕組みにはならないということなのですか。

〔佐々木生活環境担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 生活環境担当課長。

○生活環境担当課長（佐々木智紀君） 米川議員が想像しているような大規模な土地での太陽光パネルの設置は、今の段階ですが担当としては考えていませんし、そのような計画にもなっていません。

〔及川町長挙手〕

○議長（多田政拓君） 町長。

○町長（及川秀一郎君） 以前の説明の資料にもいろいろ書いてあるのですが、まずこの6年間の重点対策加速化事業の中で公共施設の屋根だったり敷地だ

ったりでパネル等蓄電池を設置していくという事業がメインですので。そうかと言うと計画の中で農地に垂直パネルを立てて、そしてそこからというような町の所管する、そういうことも含めてエネルギーの地産地消になるようなモデルになるということで今回国から採択いただいたということです。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 18ページの米川議員と同じ部分で別な質問をしたいのですが。こちら株を出資して取締役就任することによって、万が一経営が危なくなった時の経営責任は問われないのかどうか、その辺の確認をお願いします。

〔佐々木生活環境担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 生活環境担当課長。

○生活環境担当課長（佐々木智紀君） ご質問の町長が取締役になった後の責任問題の関係ですが、会社法によると仮に会社が借金をして倒産したとしても取締役とか株主に不正などが無い場合は責任を負う義務はありません。ただ、このような事態にならないように、ただ単に出資するだけではなく安平町長が取締役となり経営の監督とか意見を反映できるよう参画する必要があると考えています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ19、20ページで質疑はありませんか。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） 20ページのチャレンジショップですね。私かねてからお願いしました。せっかくまちなかの賑わい創生事業ということでトレーラーハウス3台を持ってきました。1台はサテライトオフィスということで担当課が違うのかもしれませんが、せっかく人が集まる場所ができて非常に好評です。多くの町民が利用してくれています。その中で前の土地が雨降ったり

するとあるいは春先になるとぐちゃぐちゃになるので、何とかならないのかとかねてからお願いしてきました。できた当初からお願いしてきたつもりでいるのですが、なかなかできなかつたけれども今回78万ということで予算がつきましたね。これどういうふうに整備するつもりなのか。その説明と、間もなく暑い時期が終わって今度雪が降ってきます。時期的にはいつ頃完成を目指しているのかについての説明をお願いします。

〔村上総合支所長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総合支所長。

○総合支所長（村上純一君） チャレンジショップの前の駐車場の補修の関係ですが、複数回ご指摘をいただいています、今回補正で上げさせていただいて、補正で議決後には速やかに施工したいと考えています。

どのような形かという、広さでいきますと200㎡、14m×14mで大体200弱になるので、大体チャレンジショップの前とサテライトオフィスの前の駐車場全体的にカバーできるぐらいの広さを考えています。30cmほど土砂を掘削して新たに切り込み砂利をそこに敷き詰める予定で考えています。

借地なものですから、本当は舗装とかできればいいのでしょうけど借りている土地ということもありますので、そういうところも考えて現状では砂利を30cm入れるということで予定しています。

〔梅森議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 梅森議員。

○11番（梅森敬仁君） さらに確認ですが、今まで5年間経ってきてなかなかこういうふうにはできなかったのは非常に残念に思っています。今年の夏、草が生えるということで、何日かすると綺麗になって草刈りしてくれていたのですね。当然、理事者側ではやっていないし利用者もしていないので、どうしたのかと思って確認したら見かねた地域住民がしてくれていた。これそういう保守とか修繕とか土地の管理ってどこがどう担っているのか。今使っている使用者がやるべきなのか、あるいは場所をセッティングした役場がすべきことなのか。先ほど言いましたがトレーラーハウス3台あるうちの2台は課長の担当で、もう1台は政策推進課サテライトオフィス。課がまたがっているということで不具合があつてなかなかいかないのかなと。私の記憶ではサテライトオフィスの方に砂利入れたけれども、こっちはしていなかったとか。それが行政の端境なのかなと思って感じていましたけれども。せっかく人が集まる場所ということでセッティングして好評な場所なので、何とかいい方向で維持管理してほしいんだけど、誰がどういうふうに担当しているのかについてきちんと決めてあるとは思いますが、その辺の説明と、今後

も適正に管理してほしいなと思います。特に役場の中ではそういうチームを作って、各課にまたがって同じような共通の認識に基づいて対応するんだっていう、せっかくそういうグループ作っているのに、そういうことがこういうことを見るとあまり発揮されていないのかなと思うのですけど。ちょっと長くなりましたが。管理するのが誰が管理すべきなのか。今後適正に管理してほしいんだけど、そういう方向で進んでいくということによろしいですか。

〔村上総合支所長挙手〕

○議長（多田政拓君） 総合支所長。

○総合支所長（村上純一君） 今草刈りの話でしたが、冬場の除雪も含めて基本的に建物の周りに関しては入居者が自分たちの責任で管理していただくことになっています。

除雪の駐車場に関しては町で業者に委託しているので、駐車場は町でやりますが駐車場以外、通路とかチャレンジショップ上がったところのウッドデッキとかの管理に関しては周囲の草も含め入居者の方の管理ということで入居者とはお話していますので、そこは改めて入居者も変わっていますので、あらためてお話していきたいと思っています。

〔山口まちづくり担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） まちづくり担当課長。

○まちづくり担当課長（山口崇君） 政策推進課の方ではサテライトオフィスを管理しているのですが、こちらについてはサテライトオフィスを貸し付け方式でしている事情がありまして、管理は当課でしている認識です。

今回の草刈りの部分も少しこのように連携が取れていなかったことがはっきりしまして、その辺持ち帰ってしっかり整理したいと思っています。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） 20ページの町道補修事業ということで860万ほどの金額が出ていますが、これは現状どこでどうなっているか、ご説明をお願いします。

〔塩谷土木公園担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 土木公園担当課長。

○土木公園担当課長（塩谷慎嗣君） 町道補修事業の修繕については町道あけぼ

の団地1号線及び若草団地幹線1号線。いずれも歩道の修繕に伴う予算計上となっており、地域住民より修繕の予防があったことから予算を計上させていただきました。

現場の状況ですが、舗装が亀甲状にひび割れし、不陸や陥没等が発生しており、冬季の歩道除雪にも支障をきたすことから修繕を行うものです。ちなみにあけぼの団地1号線については、あけぼの団地の一番奥の公営住宅3棟並んでいるのですが一番奥の3棟と真ん中の2棟目の間ぐらいの歩道、ちょうどごみの集積所みたいなのがあってその前が酷くなっていると。

それと若草団地幹線1号線については、若草公園側の歩道になります。一応そちらの歩道も亀甲状に割れていて非常に歩きづらい状況になっているから修繕するということになっています。

〔高山議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 高山議員。

○10番（高山正人君） 説明をいただいて、若干先に知っていたものですから現場の確認をさせていただきました。非常に悪いなんてものではなくて、ここまで傷んでいないとやってもらえないのかと。住民からの苦情によって直さないとならないって、これは本当に現状見た時にうわーっという感じがしました。ましてや職員の皆さん何人かあの辺で居住されている方もいらっしゃるって、言われる前に何とかならなかったのかなって。恥ずかしい状態というか迷惑をかけているなという姿だった気がしています。これは補正して何とかしてくれて当然の話で、こういった所がもっといっぱいあるのが現状だと思っていますのでね。特に点検されているというお話をよく聞くのですが、点検してどこをやっていないとしないのかって、ちゃんとしていないと。どこか誰かに苦情を言われたからやっていないとしないという、このアンバランスなやり方は非常に良くないんじゃないかと。ちゃんと計画があってやりましょうという話になっていますから。しっかり見た上で町民から何とかしてくださいという話の出る前に、これ何とかしてあげないと。事故になっても非常に困るので、こういったところは今回の件に限らずもう少ししっかり見ていってほしいのが私からの要望です。

〔塩谷土木公園担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 土木公園担当課長。

○土木公園担当課長（塩谷慎嗣君） 特に歩道関係について、近年ようやく歩道の修繕ということで舗装の打ち替えとかマンホールの周りにはやっているのですが、当然予算がありまして、いっぺんにできれば一番いいのでしょうけどもなかなかそうはいかないものですから、車道の修繕も多くあり

まして今回結構あちこち補正をさせていただいている状況です。なのでなるべく住民の方に迷惑がかからないような形では進めたいと思うのですが、これについては計画的というより予算の取り分の関係でできなかったり、それを翌年度に持ち越してしまったりと言う部分がありますので、今後なるべく広範囲にわたってできるような形で考えていきたいと思っています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 今の同じところで、歩道の一部分だけ修理をして後に他をやるとなった場合に工事費用が上がったり変化したりしないのかをお聞きしたいのですが。

〔塩谷土木公園担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 土木公園担当課長。

○土木公園担当課長（塩谷慎嗣君） その他というのは車道とかの。そうですね、車道も同じような場所で、車道が悪くて縁石があって歩道が悪いという場合に一体的に直す場合もありますし、状況によっては歩道だけ先行する場合があります。状況に応じてやり方を変えているわけですが、これを分けることによってお金が若干経費も上乘せになったりする可能性もあるのですが、一応維持に関しては一定の諸経費ということで取り組んでいますので、そこについての増減はそれほど大きくは発生しないかなと思っています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 土地勘も若干あるような、ないような、あいまいな感じですが。例えばあけぼの団地の方はごみボックスがある前のちょっとの歩道だけを直すとか、若草の場合は若草公園の前の歩道の部分、そこだけを直すというイメージなのか。歩道一本直すわけではないのか。道路とかあちこち毎年土嚢を何回も積み直してまたそれを綺麗にしてまた積むみたいなこともやっているのか、そこら辺含めやっていきたい気持ちもあるけども予算がって苦しい部分もあると思うのですがいかがですか。

〔塩谷土木公園担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 土木公園担当課長。

○土木公園担当課長（塩谷慎嗣君） 予算は大変厳しいです。若草の方については連続ではなくて56mとか108mとか、飛んで直すところが。ある程度比較的に支障の無いような場所については飛ばさせていただきまして舗装する形です。あけぼのの方もごみボックスがあるところの歩道だけ直しても不具合が起きますので若干すりつけるとか、工事をさせてもらうということには考えています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ21、22ページで質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ23、24ページで質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 23ページ、10款教育費の5項社会教育費3目公民館費の公民館施設管理経費ですが、こちら修繕する箇所の詳細をまず伺います。

〔渡邊社会教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 社会教育担当次長。

○社会教育担当次長（渡邊匡人君） 今回、修繕関係で補正をさせていただいたわけですが、令和7年度に入りまして全体で16か所ほど既に修繕をしなければならない状況となっています。大小あるのですが、実は補正予算の締め切りで補正予算の予算を計上させていただいた後もいくつか修繕箇所が既に出てきている状況もありまして、補正を待ちながら修繕していくことで、この後の冬場を控えていることで補正予算していただいたのですが、この後もまだわからない状況なのかなと。

ここの根拠ではないですが、大規模な修繕については既に大型事業で進めてはいるのですが、小さなものが徐々に来ていまして今回、今の段階で16か所ほど修繕が必要なところとして手を付けさせていただいている状況になっています。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） この中に遠浅公民館のエアコンの修繕が入っているでしょうか。もし入っているようでしたら、こちらのエアコンは耐用年数はどれぐらいだったかなど詳しくお伺いできたらと思います。

〔渡邊社会教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 社会教育担当次長。

○社会教育担当次長（渡邊匡人君） 今回の修繕に関して遠浅のエアコンについても入っています。実施時期ですが27、8年ぐらいかなということで、耐用年数としてはまだあるのですが、家電関係というか電気製品なものですからいつそういう状況になるとも限らない状況ではありますが、ご質問のとおり今回の16か所のうちの1か所としては既に手を付けさせていただいている事業です。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 確かこれ6月に壊れたっていう話を聞いたのですが、6月の直近補正には予算付けとして間に合わなかったという位置づけでよろしいですか。

〔渡邊社会教育担当次長挙手〕

○議長（多田政拓君） 社会教育担当次長。

○社会教育担当次長（渡邊匡人君） 当初予算で241万5000円ほど修繕費用を組んでいましたので、事業としては着手できるものでしたので着手はしたのですが、エアコン、昨今の事情もありまして部品が無いとかメーカーさんの対応ができないところもありまして、使われる皆様方には大変ご迷惑をおかけしている場面もあるのですが、担当側としては事業者をお願いをしながら手を付けさせていただきつつ、手直しもさせていただいたのですが、まだ治りきれていないところもありまして。今週の土曜日、再度メーカーさんが来て直すような状況となっています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ23、24ページ、質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ歳出の質疑を終わり、歳入の質疑に移ります。
5ページをお開きください。5ページについて質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 5ページの徴税の町民税、個人町民税と固定資産税の関係。減額と増額と補正されたのですが、こちら金額が大きめなものですから、主な要因だけで構いませんのでお願いします。

〔奥田税務戸籍担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 税務戸籍担当課長。

○税務戸籍担当課長（奥田浩司君） 補正の要因ということですが、まず個人住民税ですが、昨年もお話させていただいたと記憶していますが、そもそも予算作成時点で次年度の個人の所得を推計するのはかなり困難です。予算作成時の概ね過去3年の平均値を採用したのを予算編成を行っているところです。また、うちの町の特殊事情ですが、特定の個人の事業所得に大きく左右されることが要因でして。まずその増減の振れ幅がかなり大きいところがその要因となっています。

続いて固定資産税のお話ですが、固定資産税については土地・家屋・償却資産について課税されているのですが、このうち土地・家屋については3年ごとに価格の見直しを行います。令和6年度が評価替えの年で、今年は土地・家屋についての評価額が変わらないところですが、土地については地目の見直しだったり、家屋については新築または滅失があって、昨年とはイコールにならないところがあります。大きいところでいくとこの償却資産があたるのですが、この償却資産については経年による原価分あるいは新規取得分、廃棄分、こちらは想定するのがなかなか難しいところで、予算作成時の想定よりは多かったのかなというところです。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ6、7ページで質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ8、9ページで質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ10、11ページで質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ歳入の質疑を終わります。
総括的な質疑をお受けします。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言
はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。
これから議案第8号を採決します。本件について原案のとおり決定するこ
とにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第8号は原案のと
おり可決されました。

◎ 日程第16 議案第9号

○議長（多田政拓君） 日程第16、議案第9号 令和7年度安平町国民健康保険
事業特別会計補正予算（第2号）についてを議題とします。提案説明を求め

ます。

〔阿部国保介護担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 国保介護担当課長挙手。

○国保介護担当課長（阿部充幸君） 議案第9号朗読

議案第9号

令和7年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について

令和7年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）を別紙のとおり提出する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

国民健康保険税還付金の増額等により、令和7年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算について、地方自治法第218条第1項の規定により提案するものである。

別紙、補正予算書をご覧ください。

議案第9号

令和7年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）

令和7年度安平町の国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ301千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ889,256千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」による。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

それでは国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)についてご説明いたします。

はじめに歳出のご説明をいたします。6ページをお開きください。

6款保健事業費につきましては、保健指導実施による指導教材の購入により増額するものです。

7款諸支出金は、国保資格の遡及喪失により還付金が増加したため補正するものです。

次に歳入をご説明いたします。5ページをお開きください。

2款道支出金につきましては、財源調整として補正するものです。

以上、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ30万1000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ8億8925万6000円とするものでございます。ご審議の上、ご決定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○議長(多田政拓君) 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

歳出6ページをお開きください。6ページで質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) なければ歳出の質疑を終わり、歳入の質疑を行います。

歳入5ページをお開きください。5ページで質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) なければ質疑なしと認め、これで質疑なしと認めます。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) 討論なしと認めます。

これから議案第9号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第9号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第17 議案第10号

○議長（多田政拓君） 日程第17、議案第10号 令和7年度安平町水道事業会計補正予算（第2号）についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔谷村水道担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 水道担当課長。

○水道担当課長（谷村英俊君） 議案第10号朗読

議案第10号

令和7年度安平町水道事業会計補正予算（第2号）について

令和7年度安平町水道事業会計補正予算（第2号）を別紙のとおり提出する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

浄水場の機器更新により、令和7年度安平町水道事業会計補正予算について地方自治法第218条第1項の規定により提案するものである。

別紙、補正予算書に基づき説明します。

議案第10号

令和7年度安平町水道事業会計補正予算（第2号）

（総則）

第1条 令和7年度安平町の水道事業会計補正予算（第2号）は、次に定めると

ころによる。

(資本的収入及び支出)

第2条 予算第4条本文括弧書中、資本的収入額が資本的支出に対して不足する額80,424千円を82,151千円に、減債積立金17,760千円を19,487千円に改め、資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

第2条は支出の第1款資本的支出において水道施設改修工事費1,727千円を追加し、資本的支出の総額を130,031千円とするものです。

それでは今回の補正予算について、2ページの令和7年度安平町水道事業会計補正予算事項別明細書第2号により詳細をご説明致します。

資本的支出、1款1項1目配水設備改良費3節工事請負費につきましては、北進浄水場のろ過池水位計調節弁の不作動により工事費の増額補正を行うものとなります。現在は不作動となりました調節弁が通常に通水できる状態で停止していること、また、ろ過水がオーバーフローしないよう、ろ過池の水位を調整しながら運転しているため大きな支障はでていませんが、ろ過池水位調節弁は平成10年の基幹改良事業による更新から27年経過していること、また、急速ろ過装置において重要な弁であることから、今定例会において工事費の補正を提案させていただくものとなります。

ページを戻り1ページ、令和7年度安平町水道事業会計補正予算実施計画第2号につきましては、これまで説明いたしました補正予定額の目の段階における付属資料となります。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、よろしくお願い致します。

○議長(多田政拓君) 提案説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

本補正については第1条の総則から第2条資本的収入及び支出まで一括で質疑をお受けします。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(多田政拓君) なければ質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。

これから議案第10号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第10号は原案のとおり可決されました。

◎ 日程第18 議案第11号

○議長（多田政拓君） 日程第18、議案第11号 令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）についてを議題とします。提案説明を求めます。

〔佐々木下水道担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 下水道担当課長。

○下水道担当課長（佐々木貴之君） 議案第11号朗読

議案第11号

令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）について

令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）を別紙のとおり提出する。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

（提案理由）

職員人件費の増額等により、令和7年度安平町下水道事業会計補正予算について、地方自治法第218条第1項の規定により提案するものである。

補正予算書に基づき説明します。最初のページをご覧ください。

議案第11号

令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）

（総則）

第1条 令和7年度安平町下水道事業会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（収益的収入及び支出）

第2条 令和7年度安平町下水道事業会計予算（以下「予算」という。）第3条に定めた収益的収入及び支出の予定額を次のとおり補正する。

第2条は、支出の第1款下水道事業費用について職員人件費及び受益者分担金全納報奨金にかかる費用として18万4000円を増額し、収益的支出の総額を6億5892万7000円とするものです。

（議会の議決を経なければ流用することのできない経費）

第3条 予算第9条に定めた経費の予定額を次のように改める。

令和7年9月17日提出

安平町長 及 川 秀一郎

第3条では、職員給与費15万7000円を補正予算額として計上しています。

それでは2ページの令和7年度安平町下水道事業会計補正予算、事項別明細書第2号により詳細をご説明致します。

収益的支出、1款下水道事業費用1項1目管渠費につきましては、2節職員手当等において時期的な業務繁忙期に加え新築住宅や宅地造成等の下水道施設整備に係る設計、積算等の業務量の増大に対応したことにより、今年度の残りの期間における不足分の時間外勤務手当15万7000円を増額するものです。1項3目総係費5節報償費は、受益者分担金全納報奨金対象者の増加により2万7000円増額補正するものです。なお、1ページの令和7年度安平町下水道事業会計補正予算、実施計画第2号につきましては、只今説明いたしました補正予定額の目の段階における付属資料となります。

以上で説明を終わります。ご審議の上、ご決定くださいますよう、よろしくお願い致します。

○議長（多田政拓君） 説明が終わりましたので、これから質疑を行います。
本補正については第1条の総則から第3条の経費の予定額まで一括で質疑をお受けします。質疑はありませんか。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。
○7番（三浦恵美子君） 2ページでご説明いただきました営業費用の職員手当等の部分ですが、こちら増額要因は一時的な繁忙期のためで今後の事業遂行に対する人力的な配置についての不足などが生じないか、どうかその点について伺います。

〔佐々木下水道担当課長挙手〕

○議長（多田政拓君） 下水道担当課長。
○下水道担当課長（佐々木貴之君） 今回の増額要因、今回のみで今後についてはどうなのかというご質問かと思いますが、今回、繁忙期に先ほど説明した業務内容については7月までの実際の数値を反映したものでして、今後については例年の平均の数字で予算計上していますので、今年度についてはこれで間に合うのかなと考えています。

○議長（多田政拓君） 他にありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） なければ質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。
これから議案第11号を採決します。本件について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって議案第11号は原案のと

おり可決されました。

◎ 日程第19 意見案第1号

○議長（多田政拓君） 日程第19、意見案第1号 OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書（案）についてを議題とします。事務局長に朗読させます。

○議会事務局長（石塚一哉君） 意見案第1号朗読

意見案第1号

OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書（案）について
標題の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和7年9月17日提出

提出者 安平町議会議員 三浦 恵美子

賛成者 安平町議会議員 内藤 圭子

本件意見書の内容については、この後の提出議員からの趣旨説明によらせていただきます。なお、本件意見書が決定された場合の提出先については、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣となっています。

○議長（多田政拓君） 朗読が終わりましたので、本件について提出議員の趣旨説明を求めます。

〔三浦議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 三浦議員。

○7番（三浦恵美子君） 本意見書案は本文の朗読をもちまして趣旨説明とさせていただきます。

ＯＴＣ類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書（案）

政府は「経済財政運営と改革の基本方針2025」において、現役世代の保険料負担を軽減するためとして、「ＯＴＣ類似薬の保険給付の在り方の見直し」を盛り込みました。ＯＴＣ類似薬の保険適用除外が行われると、医師の診断ではなく患者の自己判断で市販薬を使用することが増え、適切な治療を受けられずに、重篤化することへの懸念が医師などからも指摘されています。

ＯＴＣ類似薬が保険適用から除外されることについて、薬代の負担が大幅増となり治療が継続できない事態が起きかねないと、難病患者の家族や日本アトピー協会などから保険適用の継続が求められています。

この間、各市町村では子ども医療費の助成制度の対象年齢を引き上げるなど、子どもたちの命と健康を守るための施策を強めてきました。しかし、これまで助成制度の対象になっていた処方薬がＯＴＣ類似薬の保険適用除外によって、市販薬を購入せざるを得ないようになれば、子育て世帯にとって大幅な負担増になります。日本小児科医会からは「保険適用除外は保護者の経済的負担を増し、少子化のなか『子育て支援』策として全国的に拡がっている小児医療費の保護者負担軽減の方向に逆行し『子育て妨害』です。」という指摘がされています。

国民の２人に１人が罹患していると言われている「花粉症」の患者や1000万人を超えている「変形性膝関節症」の患者など、広範な患者の負担増にもなりかねません。

よって、政府は医療費削減ありきではなく、すべての国民が必要な医療を受けることができるように、ＯＴＣ類似薬の保険適用除外を進めないことを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

令和7年9月17日

北海道勇払郡安平町議会議長 多田 政拓

（提出先）

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣

皆様のご審議の上、ご賛同いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（多田政拓君） 提出議員の趣旨説明が終わりましたので、これから本件について質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言はありませんか。

○（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。
これから意見案第1号を採決します。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって意見案第1号は、原案のとおり可決されました。

◎ 日程第20 意見案第2号

○議長（多田政拓君） 日程第20、意見案第2号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書（案）についてを議題とします。事務局長に朗読させます。

○議会事務局長（石塚一哉君） 意見案第2号朗読

意見案第2号

国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書（案）について

標題の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和7年9月17日提出

提出者 安平町議会議員 鳥越 真由美

賛成者 安平町議会議員 米川 恵美子

本件意見書の内容については、この後の提出議員からの趣旨説明によらせていただきます。なお、本件意見書が決定された場合の提出先については、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、国土強靱化担当大臣となっています。

○議長（多田政拓君） 朗読が終わりましたので、本件について提出議員の趣旨説明を求めます。

〔鳥越議員挙手〕

○議長（多田政拓君） 鳥越議員。

○４番（鳥越真由美君） 本意見書案の趣旨説明は朗読をもちまして説明とさせていただきます。

国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書（案）

北海道は豊かな自然・広大な大地・冷涼な気候などの特性と豊富な再生可能エネルギーをはじめ我が国最大の供給力を有する農林水産物、自然や文化を生かした魅力的で質の高い観光資源といった数多くのポテンシャルを有しており、これらの独自性や優位性を生かしながら将来にわたって持続可能な活力ある北海道の実現を目指している。

しかしながら、本道の道路を取り巻く環境は高規格道路におけるミッシングリンクをはじめ自然災害に伴う交通障害、幹線道路や通学路における交通事故、道路施設の老朽化など多くの課題を抱えている。

こうした課題を解消し人流・物流の効率化による生産性向上及び国際競争力の強化や、激甚化・頻発化する大規模災害に備えた強靱な地域づくりを進めるためにも本道の骨格を形成する高規格道路から身近な市町村道に至る道路網の整備や老朽化対策などを着実に推進するとともに、積雪寒冷地である本道では安定した除排雪体制の確保など冬期間の住民の安全・安心を確保することが必要である。

そのため地方財政が依然として厳しく、また資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対応する中でも必要な道路整備や除排雪を含む維持管理を長期安定的に進めるための予算を確保することが重要である。

よって国においては切迫するとされている日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震や気候変動に伴って激甚化・頻発化する自然災害への対応のほか、令和６年能登半島地震の教訓なども踏まえ、高規格道路から市町村道に至る道路網の整備や老朽化対策、除排雪の充実確保など国土強靱化の取り組みをより一層推進するため、

次の事項について特段の措置を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 山積する道路整備の課題に対応しながら、計画的かつ長期安定的な道路整備や維持管理が進められるよう必要な予算を確保すること。
- 2 第1次国土強靱化実施中期計画に基づく橋梁・トンネル・舗装等の老朽化対策や無電柱化などを着実に進めるために、今後の資材価格・人件費高騰等の影響を適切に反映した必要な予算・財源を確保すること。
- 3 人流・物流の活性化による生産性向上に向けた高規格道路のミッシングリンクの解消や、高規格道路と直轄国道の連携によるダブルネットワークの構築、暫定2車線区間の4車線化や耐震補強等の機能強化など、国土強靱化に資する災害に強い道路ネットワークの整備を推進すること。
- 4 令和7年度より舗装補修の対象範囲が拡充された緊急自然災害防止対策事業債の延長を含めた地方財政措置制度の充実を図ること。
- 5 冬期における安全な道路交通の確保、通学路などの交通安全対策の推進など、地域の暮らしを支える道路整備や除排雪を含む道路維持の充実が図られるよう必要な予算を確保すること。
- 6 災害発生時の迅速かつ円滑な復旧等のため、北海道開発局及び各開発建設部の人員体制の充実・強化を図ること。
- 7 維持管理に活用可能な交付金制度を創設するとともに、老朽化が進む上下水道及び各種公共施設の長寿命化について、すべての管理施設の点検や診断・補修・更新が交付対象となるよう採択要件を緩和するなど、地方負担の軽減を図ること。
- 8 冬期における円滑な交通確保のため、労働力の確保に必要な賃金水準の上昇等も加味した上で除排雪に必要な予算を確保するとともに、老朽化が進行している除雪機械等の計画的な更新・増強が可能となるよう財政支援を強化すること。
- 9 日本海溝・千島海溝周辺型地震に備え、避難施設・避難路などの整備及び津波対策緊急事業について必要な予算の確保、地方負担を軽減する財政支援の充実強化を図ること。
- 10 堤防整備、ダム建設・再生、海岸整備などの対策をより一層加速するため、粘り強い堤防の整備に関する交付金制度の拡充や準用河川改修の事業要件緩和、小規模河川改修に対応した財政・技術支援制度の創設など流域治水の取り組み

に必要な財政支援を更に強化すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により提出する。

令和 7 年 9 月 17 日

北海道勇払郡安平町議会議長 多田 政拓

(提出先)

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、
国土強靱化担当大臣

以上、議員各位のご賛同をお願いし趣旨説明とさせていただきます。

○議長（多田政拓君） 提出議員の趣旨説明が終わりましたので、これから本件
について質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

次に討論に入ります。まず本案に対して反対の方の発言を許します。発言
はありませんか。

○（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 討論なしと認めます。

これから意見案第 2 号を採決します。本案について原案のとおり決定する
ことにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。したがって意見案第 2 号は原案の
とおり可決されました。

◎ 日程第21

○議長（多田政拓君） 日程第21、議員派遣の件について議題とします。

お諮りします。令和7年11月6日に洞爺湖町において開催予定の胆振管内町村議会議長会主催による管内議会議員研修会に全議員を派遣したいと思いをます。これについてご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認め、そのように決定しました。

なお、この他に次の定例会までの間に議員の派遣について急施を要する事件が発生した時は、内容等を勘案の上議長において派遣議員を決定したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

◎ 日程第22～24

○議長（多田政拓君） 日程第22、総務常任委員会の閉会中の継続調査申し出について。

日程第23、経済常任委員会の閉会中の継続調査申し出について。

日程第24、議会運営委員会の閉会中の継続調査申し出について。

以上3件を一括議題とします。お手元に配布のとおり両常任委員長及び議会運営委員長から所管事務並びに所掌事務について閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします、各委員会の閉会中の継続調査申し出については、申し出のとおり承認することにご異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（多田政拓君） 異議なしと認めます。よって各委員会の閉会中の継続調査申し出については、申し出のとおり承認することに決定しました。

◎ 閉会宣告

○議長（多田政拓君） 以上をもちまして、本定例会の会議に付された議案の審議は全て終了しました。本会議の議事運営に特段のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和7年第6回定例会を閉会します。ご苦労様でした。

延会 午後4時13分

会議の経過を記載してその相違ないことを証するため、地方自治法第123条第2項の規定に基づき、ここに署名する。

令和 年 月 日

議長

署名議員

署名議員
